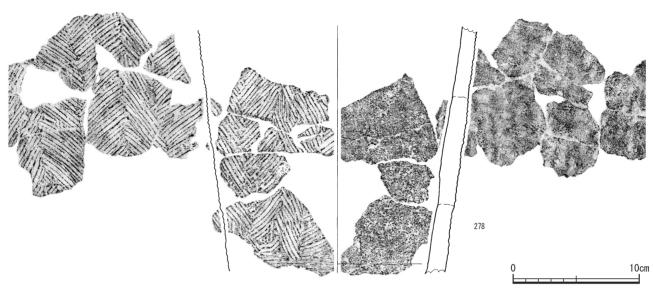


第238図 縄文早期土器実測図 (40) (3.31群土器/桐木調査区出土)

第63表 縄文早期土器観察表 (21) (3群土器-11) 第64表 縄文早期土器観察表 (22) (3群土器-12)

挿図 No	図 No	分類 記号	取上No (グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
238	273	3. 31	〇42760 (B-9/VII) 〇56794 (H-8/VIII) 〇59184 (E-7/VII) 〇60417 (G-6/VII下)	輝,砂粒	ヘラナデ	-	-
238	274	3. 31	O59118 (E-7/VII)	輝,細粒	模〜ラナデ、 ハケー丁率なナデ	_	
238	275	3. 31	〇59067 (F-7/VII) 〇59084 (F-7/VII下) 〇59209 (F-7/VII上) 〇59211 (F-7/VIII) 〇59219 (F-7/VIII)	輝,角,雲,細粒 ,赤粒	横ハケ→丁寧なナデ	_	胎土精選
238	276	3. 31	○59221 (F-7/WII) ○59419 (E-8/WI下) ○60661 (E-8/WI下) ○60662 (E-8/WI下)	輝,角,細粒	ハケ→ナデ	_	-
238	277	3. 31	○37883 (D-9/VIII) ○66216 (G-11/VIII)	角,輝,細粒	ハケ→丁寧なナデ	-	-

挿図 No	図 No	分類 記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
239	278	3. 31	OS8184 (F-6/VII)	角,輝,砂粒	† f		
240	279	3. 15	〇59052 (E-7/虹下) 〇59158 (E-7/虹)	輝,砂粒	ハケ→ナデ	-	砂粒多量
240	280	3. 15	O60060 (E-7/Ⅷ) O60621 (E-7/Ⅷ下)	雲,角,砂粒	ハケ→ナデ	-	-
240	281	3. 15	〇37494 (C-11/VIII) 〇42055 (D-8/VIII上) 〇47065 (K-36/IV上)	黒,砂粒	ハケナデ	-	砂粒多量
240	282	3. 15	〇37674 (D-11/VIII) 〇60147 (F-6/VIII) 〇65734 (G-8/VIII) 〇66176 (G-11/VII下)	黑,砂粒	縦ケズリ→ナデ	-	_
240	283	3. 15	⊚15074 (A-11/-)	黒,細粒	縦ケズリ→粗いナデ	-	-
240	284	3. 15	○9393 (A-12/IV) ○9395 (A-12/IV) ○55236 (G-8/班) ○61448 (H-8/班上)	角,細粒	ハケナデ→丁寧なナデ	-	-



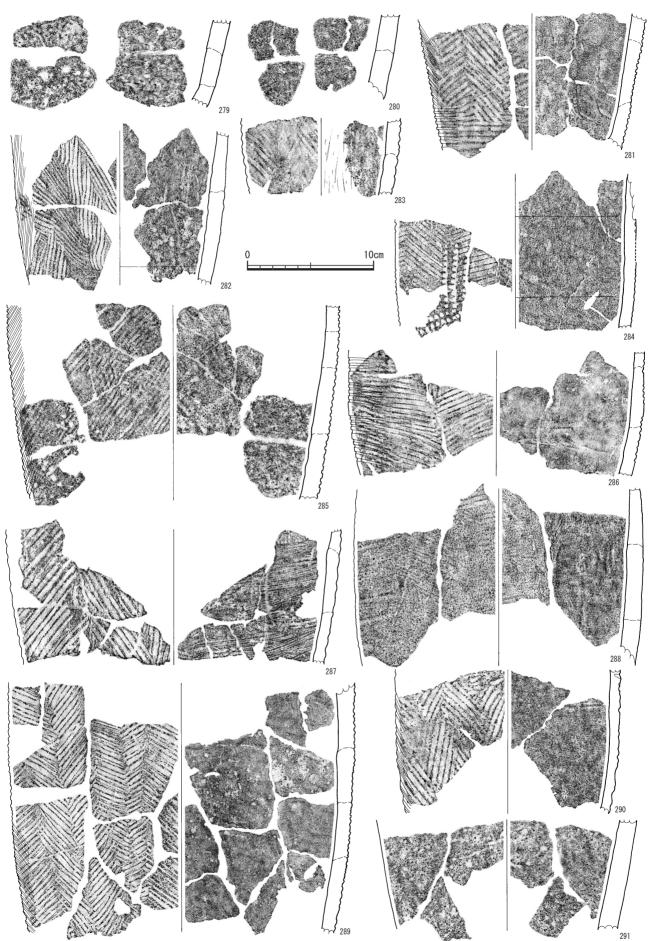
第239図 縄文早期土器実測図(41)(3.31群土器/桐木調査区出土)

第65表 縄文早期土器観察表(23)(3群土器-13)

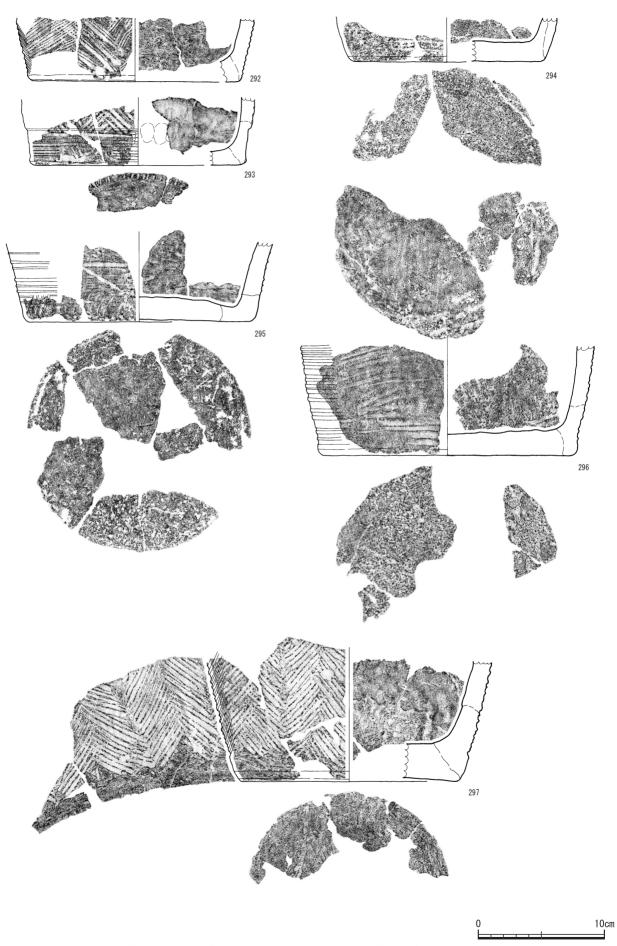
	男03衣 - 純乂早朔工奋観祭衣(23) (3 群工奋-13) 									
挿図 No	図 No	分類 記号	取上No (グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考			
240	285	3. 15	〇42068 (D-8/班上) 〇59256 (E-7/班) 〇60055 (E-7/班) 〇60071 (F-7/班)	輝,砂粒	横ハケ→ナデ	-	-			
240	286	3. 15	○58741 (F-5/VIII) ○68080 (F-13/VII)	角,砂粒	横ハケ→ナデ	-	-			
240	287	3. 15	O11432 (B-11/VT) O35958 (B-11/VI) O36561 (B-11/VI) O36568 (B-11/VI) O36571 (B-11/VI) O36574 (B-11/VI) O37156 (B-11/VI) O37162 (B-11/VI)	輝,砂粒	工具斜ハケ→ナデ	-	-			
240	288	3. 15	O38346 (E-11/VII) O38347 (E-11/VII) O38426 (D-11/VII) O43453 (E-11/VIII)	角,輝,砂粒	指頭痕, ハケ→ナデ	_	_			
240	289	3. 15	O42006 (E-8/VIII_L) O59006 (F-7/VIII_L) O59007 (F-7/VIII_L) O59102 (E-6/VIII_L) O59103 (E-7/VIII_L) O59103 (E-7/VIII_L) O59423 (E-8/VIII_T) O59433 (E-8/VIII_L) O59443 (E-8/VIII_L) O59453 (E-8/VIII_L) O60229 (E-8/VIII_L) O61169 (D-7/VIII_T) O611420 (G-7/VIII_L)	角,輝,砂粒	ケズリ→丁寧なナデ		_			
240	290	3. 15	O43419 (C-10/VIII) O43420 (C-10/VIII)	角,輝,細粒	斜, 横ハケ→ナデ	_	-			
240	291	3. 15	O29235 (D−12/V下) O59241 (F−7/VIII)	輝,雲,砂粒	ナデ	-	-			
241	292	3. 151	O41970 (E−8/Ⅷ) O47985 (C−13/ V a)	角,砂粒	ハケ→ナデ, 指頭痕	丁寧なナデ	_			
241	293	3. 151	◎39396(こ-30/Ⅳ上)	輝,細粒	ナデ	貝殻ナデ	-			
241	294	3. 151	-? (-/-) -568?? (-/-)	角,輝,砂粒	横ハケ→ナデ	横ハケ→ナデ				
241	295	3. 151	O58668 (E-7/VII) O58718 (E-6/VII) O59251 (E-7/VIII) O59259 (E-7/VIII) O62701 (I-5/VII) O63265 (H-7/VIII)	角,砂粒,輝	ハケ→ナデ、指頭痕	ハケ→ナデ	-			
241	296	3. 151	〇36850 (E-10/班下) 〇68024 (I-12/班)	輝,黒,砂粒	ケズリ→粗いナデ	-	-			
241	297	3. 151	○42194 (C-9/VII下) ○58144 (E-5/VII) ○58150 (E-6/VII) ○59418 (E-8/VIII) ○60241 (E-8/VIII)	砂粒,角,輝	ハケ→ナデ	ナデ, ハケ→ナ デ	-			
242	298	3. 151	O58639 (E-7/VIII) O66781 (G-11/VIII)	角,輝,砂粒	ハケ→ナデ	-	底端部に刻み			
242	299	3. 151	〇59043 (F-7/班上) 〇59450 (E-8/班) 〇59462 (E-8/邓下)	角,輝,砂粒	ハケ→ナデ	-	-			
242	300	3. 151	O42124 (D-7/VIII) O58697 (E-6/VIII)	輝,細粒	ハケ→ナデ	丁寧なナデ	-			
242	301	3. 151	O59123 (E-7/VIII) O59245 (E-7/VIII) O59246 (E-7/VIII) O59545 (E-7/VIII)	輝,砂粒	ハケ→ナデ, ユビナデ		-			
242	302	3. 151	○37106 (E-11/址下) ○42118 (D-8/V 模転) ○59478 (E-8/Ⅷ) ○60233 (E-8/Ⅷ) ○60978 (G-7/Ⅷ) ○66022 (G-10/Ⅷ)	輝,砂粒	ナデ	-	-			

第66表 縄文早期土器観察表(24)(3群土器-14)

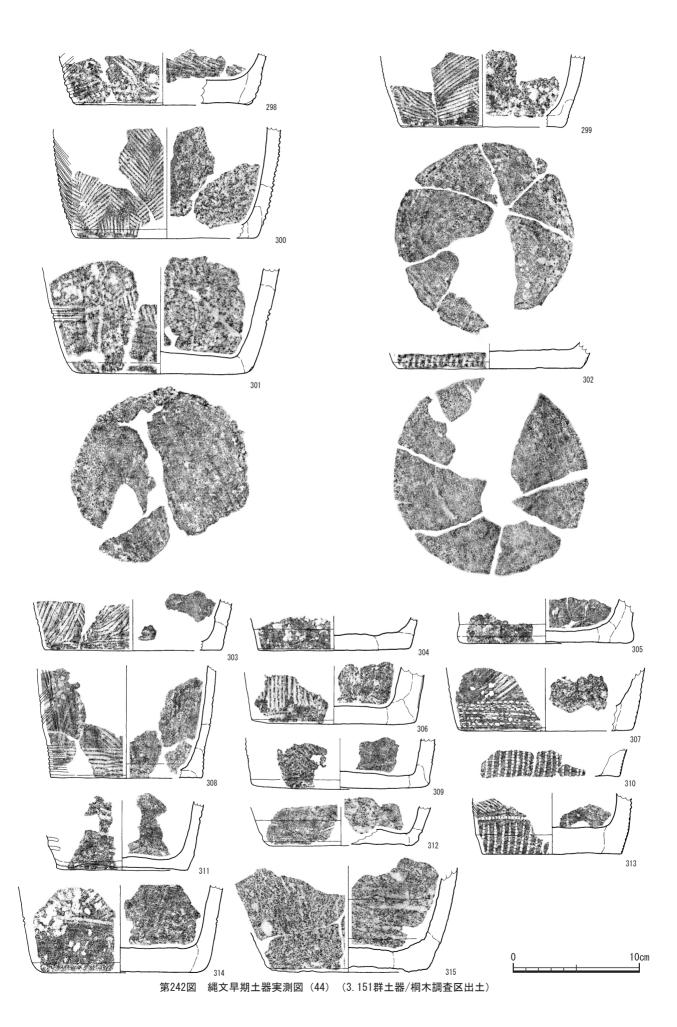
重図 No	図 No	分類 記号	取上No (グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
42 3	303	3. 151	○37394(D-10/Ⅷ横転) ○66684(I-10/Ⅷ)	角,輝,砂粒	ナデ	ナデ	内面全体に化制 土
42 3	304	3. 151	〇40894 (E-8/VII) 〇42084 (D-8/VIII) 〇42530 (D-8/VIII下) 〇66812 (F-11/VIII)	黒,砂粒	工具ナデ→ユビナデ	丁寧なナデ	_
42 3	305	3. 151	O86 (B-10/VII) O106 (B-10/VII)	砂粒,角	ハケ→ナデ	丁寧なナデ	-
42 3	306	3. 151	〇2077 (E-9/VII) 〇35264 (E-9/VII下)	角,砂粒	ナデ, ユビナデ	-	-
42 3	307	3. 151	O58002 (E−7/VIa) O59143 (E−7/VIII)	角,砂粒,赤粒	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	-
42 3	308	3. 151	〇37078 (E-11/VII下) 〇66614 (H-11/VIII) 〇66714 (I-10/VIII)	角,砂粒	ケズリ→粗いナデ	ナデ	-
42 3	309	3. 151	○59270 (E-7/VIII) ○63339 (I-7/VII) ○65836 (G-8/VIII)	角,輝,砂粒	ハケ→ナデ	-	-
42 3	310	3. 151	〇61462 (H-8/Ⅷ) 〇66834 (I-9/Ⅷ下)	角,砂粒	-	丁寧なナデ	明瞭な接合痕
	311	3. 151	○65918 (F-10/ឃ上) ○65918 (F-10/ឃ上) ○66050 (F-10/ឃ1) ○66737 (F-10/ឃ1) ○66738 (F-10/ឃ1) ○67008 (F-9/ឃ1)	黒,細粒	横ハケ→ナデ. ユビ→ナデ	粗いナデ	-
42 3	312	3. 151	○35427 (C-10/VII横転) ○35806 (C-10/VII)	輝,砂粒	ケズリ→粗いナデ, ハケ→ナデ	横ハケ→ナデ, ハケ→ナデ	-
42 3	313	3. 151	○55737 (H-8/VII) ○66516 (H-8/VIII)	角,砂粒	ハケ→ナデ	ミガキ	-
42 3	314	3. 151	O42536 (E-8/VIII) O59461 (E-8/VIII)	輝,砂粒	横ハケ→ナデ, ヘラナデ	ナデ	-
42 3	315	3. 151	○849 (E-9/VIa) ○850 (E-9/VIa) ○36694 (D-10/VI) ○37056 (E-11/VIII) ○40644 (D-8/VII下)	輝,細粒	ヘラケズリ→粗いナデ. ヘラケズリ→粗いナデ	-	-
43 3	316	3. 151	O58126 (E-6/VII) O60224 (E-8/VIII) O60666 (E-8/VIII)	角,輝,砂粒	ハケ→ナデ	ナデ	底面に白色粒物 ,底面に数か所 貝殻で刺した跳 あり
43 3	317	3. 151	〇42529 (D-8/WII下) 〇59077 (F-7/WI下) 〇60929 (G-7/WI下)	角,輝,細粒	横ハケ→ナデ	横ハケ→粗いナ デ	-
43 3	318	3. 151	O64438 (I-8/VII) O66160 (F-11/VII)	角,輝,砂粒	指頭痕	ケズリ→ナデ	-
43 3	319	3. 151	O60845 (-/VIII) O64449 (1-7/VII)	砂粒,輝,白粒	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	-
43 3	320	3. 151	O66167 (F-11/VIII) O66903 (H-10/VIII)	角,輝,細粒	ケズリ→ナデ	-	-
43 3	321	3. 151	○36170 (C-11/VII) ○36189 (C-11/VII) ○37960 (C-11/VIII)	角,砂粒	工具ナデ, ユビナデ	-	-
43 3	322	3. 151	O36691 (D-10/VI) O36770 (E-9/VIII)	砂粒,角,輝	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	器壁が薄い
43 3	323	3. 151	○60195 (E-7/VIII) ○60297 (E-7/VIII) ○60825 (G-7/VIII)	角,輝,細粒	指頭痕,ハケ→ナデ	横ハケ→ナデ	-
44 3	324	3. 113	▲3328 (G-18/VII) ▲3646 (H-18/VII) ▲3946 (H-18/VII) ▲5324 (G-18/VII)	角, 黒, 輝, 細粒	縦ハケ→ナデ	-	_
44 3	325	3. 15	▲1975 (I-19/VII) ▲1985 (I-19/VII)	角,輝,細粒	横ハケ→ナデ	-	-
44 3	326	3. 15	▲16156 (J-9/VIa) ▲19514 (-/-)	輝,砂粒	横ケズリ→ナデ	-	砂粒多量
44 3	327	3. 15	▲3316 (G-18/VII) ▲3332 (G-18/VII)	輝,細粒	横ハケ→丁寧なナデ	-	-
44 3	328	3. 122	▲11091 (J-20/VIII)	角,輝,砂粒	横ハケ→丁寧なナデ	-	-
	329	3. 15	▲2060(I-19/VIII)	角,細粒	ハケ→ナデ	-	-
_	330	3. 15	▲4377 (I-17/VII)	輝,細粒	ハケ→ナデ 横ハケ→ナデ	-	-



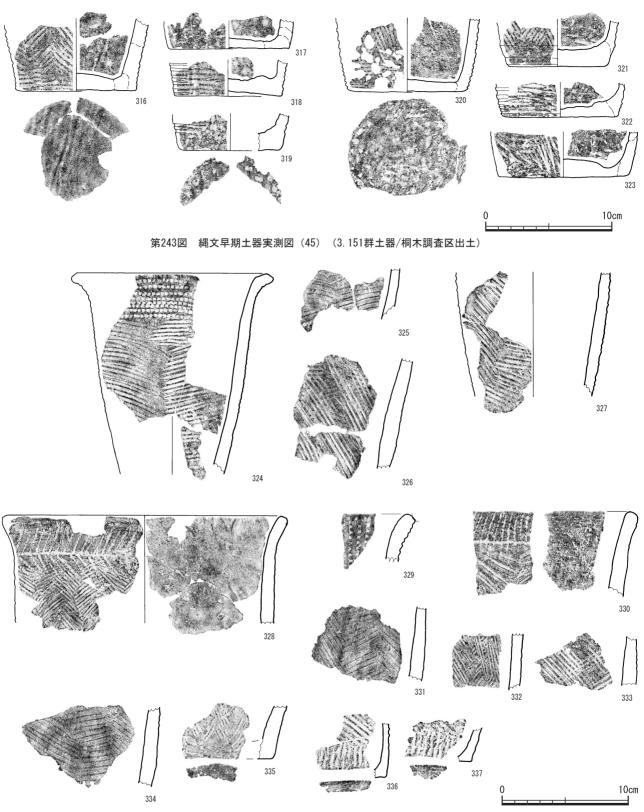
第240図 縄文早期土器実測図 (42) (3.15群土器/桐木調査区出土)



第241図 縄文早期土器実測図 (43) (3.151群土器/桐木調査区出土)



- 240 -



第244図 縄文早期土器実測図 (46) (3.113群土器/3.122群土器/3.151群土器/耳取調査区出土)

第67表 縄文早期土器観察表 (25) (3群土器-15)

挿図 No	図 No	分類 記号	取上No (グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
244	331	3. 15	▲2083 (I-19/VIII)	輝,細粒	ハケ→ナデ	-	-
244	332	3. 15	▲11083 (J-20/VII)	角,輝,細粒	ハケ→ナデ	-	混和材:角閃石
244	333	3. 15	▲15248 (I-10/VII)	角,砂粒	斜ケズリ→粗い	-	砂粒多量
244	334	3. 15	▲2031 (I-19/VII)	角,輝,細粒	ハケ→ナデ	-	-

第6	第68表 縄文早期土器観察表 (26) (3群土器-16)									
挿図 No	図 No	分類 記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考			
244	335	3. 151	▲11090 (J-20/Ⅷ)	角,輝,細粒	-	-	混和材:角閃石			
244	336	3. 151	▲1925 (I-19/VIa) ▲1995 (I-19/VII)	角,輝,雲,細粒	縦ケズリ→ナデ	底面:ハケ→ナ デ	-			
244	337	3. 151	▲2020 (I-19/VIII)	輝,角,雲,細粒	縦ケズリ→粗いナデ	底面:ハケ→ナ デ	-			

3 縄文時代早期中葉の土器群

桐木耳取遺跡で出土した縄文時代早期中葉の時期に属する 土器は、概要の項で示したように5群に大別できた。

さて出土分布図から縄文時代早期中葉の土器群は、主に耳取調査区北側地区および耳取調査区南側地区に集中していることが指摘できる。そして桐木調査区西側地区では部分的にまとまって出土し、桐木調査区南側地区や桐木調査区北側地区では点々と散在して出土している(第182図参照)状況が指摘できる。

これらの土器群はさらに、土器型式別に細別が可能であるため、順次報告を行うことにする。

第4群土器(第251図~第261図338~408)

第4群土器に属する土器は、その施文的特徴および器形的特徴から、さらに4類に分類できた。

本群に属する土器は層位的にはWI層とを中心にWI層でも出土しているが、上層のVII層やVI層からも出土しており、地層の横転や後世の撹乱が激しかったことが認められる。

第4群土器第1類土器(分類記号4.1, 第251図~第254図 338~351)

第4群土器第1類土器に属する土器を14点資料化した。 器形的特徴としては2種類に分けられるといえる。

第1タイプ土器は、口縁形態は平口縁を呈し、口縁部は若 干内弯して、口唇部は水平な平坦面あるいは内傾する平坦面 を作出する。そして、胴部は直線的にすぼまり、底部は平底 を呈するのが特徴である(第251図~第252図338~346)。

第2タイプ土器は、口縁形態は平口縁を呈し、口縁上端部のみが若干内弯する以外は、口縁部はほぼ直行する。特に口縁上端部外面はほぼ45°の角度で丸く削られている。見かけ上、口縁部の内弯形態を強調するのが特徴である(第254図349~351)。

施文的特徴としては、波状を呈する貝殻刺突文が本類土器細別の指標である。口縁部文様帯には横位方向に貝殻刺突文を数条巡らし、胴部文様帯全面には羽状あるいは鋸歯状の貝殻刺突文を縦位方向あるいは斜位方向に施し、さらに胴部下端部には羽状文を1列横位方向に巡らす特徴がある。

調整方法としては、内器面では、木製工具によるハケ調整の後にナデ調整を最終調整としている土器が多数を占めた。また、最終調整として丁寧なナデ調整を行う土器も中には見受けられた。しかし、これらの調整方法の違いと相関関係を高く示す他の属性は無かった。

本類土器の胎土中鉱物としては、主に角閃石を含む土器と、主に黒雲母を含む土器とに分かれた。また粗い粒度の鉱物が含まれる土器も細かい粒度の鉱物で構成される土器も共に多かったが、角閃石を含む土器には細かい粒度の鉱物で構成される土器が多く観られた。

さて、出土分布図から本類に属する土器は主に、桐木調査区北側地区のうち、特に桐木調査区B~F-7~10区周辺に集中していることを指摘できる(第246図・第249・250図参

照)。この分布域は、次の第4群土器第2類土器や第3類土器そして第4類土器の分布域とは明らかに異なっており(第246・247図・第249・250図参照)、注目できる。

第4群土器第2類土器(分類記号4.2, 第255·256図352~376)

第4群土器第2類土器に属する土器を25点資料化した。 器形的特徴としては第1類土器と同様に2種類に分けられることが特徴である。

第1タイプ土器は、口縁形態が平口縁を呈し、口縁部が若干内弯し、口唇部が水平あるいは内傾する平坦面を作出する。また、胴部は直線的にすぼまり、底部は平底もしくは若干の上げ底となるのが特徴である(第256図359~376)。器形的には第4群土器第1類土器第1タイプ土器と共通する。

第2タイプ土器は、口縁形態は平口縁を呈し、口縁上端部が若干内弯し、口縁部はほぼ直行する。特に口縁上端部外面は、ほぼ45°の角度で丸く削られ、見かけ上、口縁部の内弯形態を強調するのが特徴である(第255図352~358)。器形的には第4群土器第1類土器第2タイプ土器と共通する。

施文的特徴としては、「コ」字状を呈する貝殻押引文が本類土器細別の指標である。口縁部文様帯には横位方向に貝殻押引文を数条から十数条施す土器と、羽状に貝殻押引文を横位方向に巡らす土器とが挙げられる。また、胴部文様帯は胴部下端部にかけて全面にわたり、横位方向に貝殻押引文を施す土器と、縦位方向に羽状もしくは鋸歯状の貝殻押引文を施す土器とに分けられることが指摘できる。

調整方法としては、内器面では、木製工具によるハケ調整の後に丁寧なナデ調整を最終調整としている土器が多数を占めた。また、第4群土器第1類土器では主体であった最終調整としてナデ調整に止める土器や、ミガキに近い丁寧なナデ調整を行う土器も少量見受けられることが挙げられる。

本類土器の胎土中鉱物としては、主に角閃石を含む土器と、主に黒雲母を含む土器とがあるのは、第4群土器第1類土器と共通している。また、細かい粒度の鉱物で構成される土器が多く観られたことは、第4群土器第1類土器とは様相を異にしている。

さて、出土分布図から本類に属する土器は主に、耳取調査区北側地区のうち、特に耳取調査区 F~K-2~6 区周辺と、桐木調査区北側地区のうち、特に桐木調査区 D・E-11~16区周辺とに集中していることが指摘できる(第246図・第249・250図参照)。この分布域は、桐木調査区北側地区のなかでも第4群土器第1類土器の分布域とは異なる状況にある。また、第4群土器第3類土器の分布域とは、耳取調査区北側地区では重なるのに対して、桐木調査区北側地区では異なることが指摘できる。

ここで注目できるのは、第1タイプ土器に分類した土器は 耳取調査区北側地区から出土しているのに対して、第2タイプ土器に分類した土器は桐木調査区北側地区から出土しており、第4群土器第2類土器のなかでも分布域を異にすることである。この状況は、器形的には類似する第4群土器第1類 土器とは異なる状況であり、解釈には慎重を要する。

第 4 群土器第 3 類土器 (分類記号4.3, 第257図~第259図 377~404)

第4群土器第3類土器に属する土器を28点資料化した。

器形的特徴としては口縁形態は平口縁を呈し、口縁部は若干内弯し、口唇部は内傾する平坦面を作出することが挙げられる。次に、胴部形態では直線的にすぼまる土器が主体を占めるが、弯曲しながらすぼまる土器(第259図404)もあり、2種に分けることが可能である。さらに資料化できた底部形態は第257図389の1点ではあるが、若干の上げ底を呈することが指摘できる。

施文的特徴としては、文様構成で4タイプに分類できる。 第1タイプ土器は、口縁部文様帯から胴部文様帯にかけて 箆状工具による羽状文を横位方向に連続して施す土器(第257 図~第259図377,379,381,382,384,396,397)である。

第2タイプ土器は、口縁部文様帯には貝殻刺突文を横位方向に数条施し、その直下以下には箆状工具による羽状文を横位方向(第257図~第259図378,380,383,386)あるいは縦位方向(第257図385)に施す土器である。

第3タイプ土器は、胴部文様帯に貝殻刺突文を横位方向に3~4条巡らした部分と、箆状工具による羽状文を横位方向に数条施した部分とを交互に施す土器(第257図~第259図388,389,393,395,398~404)である。

第4タイプ土器は、胴部文様帯に箆状工具による連続した 刺突文で縦位方向に沈線文と羽状文とを施文する部分を、交 互に施しながら胴部全面に横位方向に施文する土器(第258・ 259図387,395)である。

本群においては、口縁部から底部まで接合した事例が少なく、口縁部文様帯と胴部文様帯との組合わせは不明である。

調整方法としては、内器面では、最終調整として丁寧なナデ調整を行う土器やミガキに近い丁寧なナデ調整を行う土器が主体を占めた。この状況は第4群土器第2類土器に比べ、更にナデ調整が丁寧であることが指摘できる。また、第4群土器第1類土器で主体であった直前調整として木製工具によるハケ調整の後に、最終調整としてナデ調整を行う土器も少量みられることは、第4群土器第2類土器と同様である。

しかし、これらの調整方法の違いと高い相関関係を示す他 の属性は無かった。

本類土器の胎土中鉱物としては、主に黒雲母や輝石などからなる土器が多数観られた。特に黒雲母を多く含む土器であり、混和材として含ませた可能性の高いことが特記できる。

また、粗い粒度の鉱物が含まれる土器も細かい粒度の鉱物で構成される土器も共に多かったが、第4群土器第1類土器や第2類土器と比べて、その含まれる割合は共に多い状況が指摘できる。

さて、出土分布図から本類に属する土器は主に、耳取調査区北側地区のうち、特に耳取調査区F~H-3~5区周辺と、桐木調査区北側地区のうち、特に桐木調査区A-11区周辺と、桐木調査区西側地区のうち、特に桐木調査区E~

H-21~26区周辺とに集中していることを指摘できる(第247 図・第249・250図参照)。この分布域は、耳取調査区では第4群土器第2類土器の分布域とは重なる。しかし、桐木調査区では第4群土器第1類土器や第2類土器の分布域とは異なることが指摘でき、注目できる。

第 4 群土器第 4 類土器 (分類記号4.4, 第260·261図405~408)

第4群土器第4類土器に属する土器を4点資料化した。

本類土器は、施文的特徴では本群に属する土器ではあるが、器形的特徴などの諸属性ではどの類にも帰属し得なかった土器である。今後注意を要する土器として本類に細別した

耳取調査区 J-8 区で出土した第260図405, 406は、同一個体の土器である。

器形的特徴としては、口縁部から胴部上半にかけて強く外 反し、胴部はほぼ直行する器形を呈する特徴を有している。

施文的特徴としては、口縁部文様帯から胴部文様帯にかけて、箆状工具による羽状文を縦位方向に数段ずつ施した後に 横位方向に巡らす部分と、貝殻刺突文を横位方向に数条施す 部分とを交互に施し、第4群土器第3類土器と同様の文様を 構成することである。

調整方法としては、内器面では、直前調整として木製工具によるハケ調整の後に最終調整としてナデ調整を行う土器である。この調整方法は、第4群土器第1類土器で主体であった方法である。

本類土器の胎土中鉱物としては、主に角閃石と輝石で構成され、粗い粒度の鉱物が含まれる土器であった。

耳取調査区H~ I-3~7区周辺で出土した第261図407,408は鉢形土器である。

器形的特徴としては、口縁部は短く外に開き、胴部は外面 は膨らみ基本的には直立する形態であることが指摘できる。

施文的特徴としては、口縁部文様帯から胴部上半にかけては貝殻刺突文による羽状文を横位方向に巡らし、胴部上半から胴部下半にかけては貝殻刺突文と貝殻条痕文とで文様を構成していることが挙げられる。文様構成からは第4群土器第2類土器に類似する土器である。

調整方法としては、内器面では、最終調整として丁寧なナデ調整を行う土器である。この調整方法は、第4群土器第3類土器で主体であった方法である。

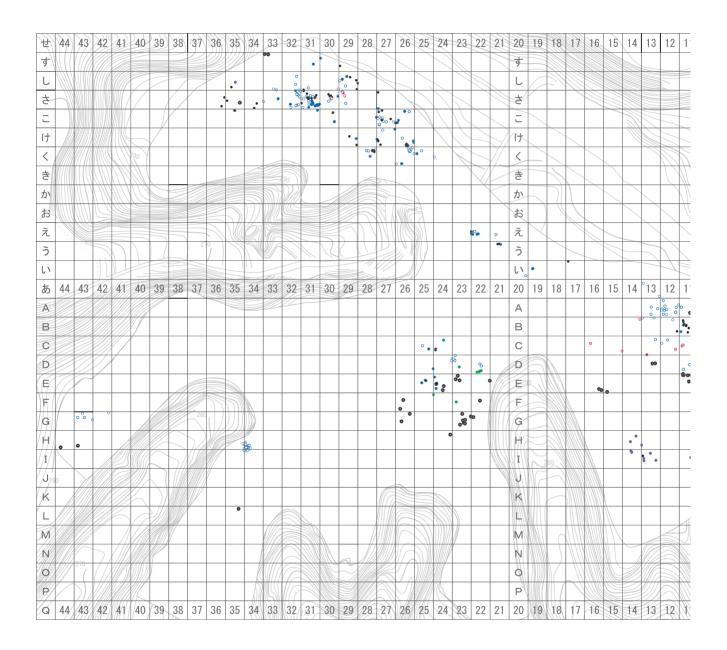
本類土器の胎土中鉱物としては、主に黒雲母と輝石、雲母で構成され、細かい粒度の鉱物を含む土器であった。

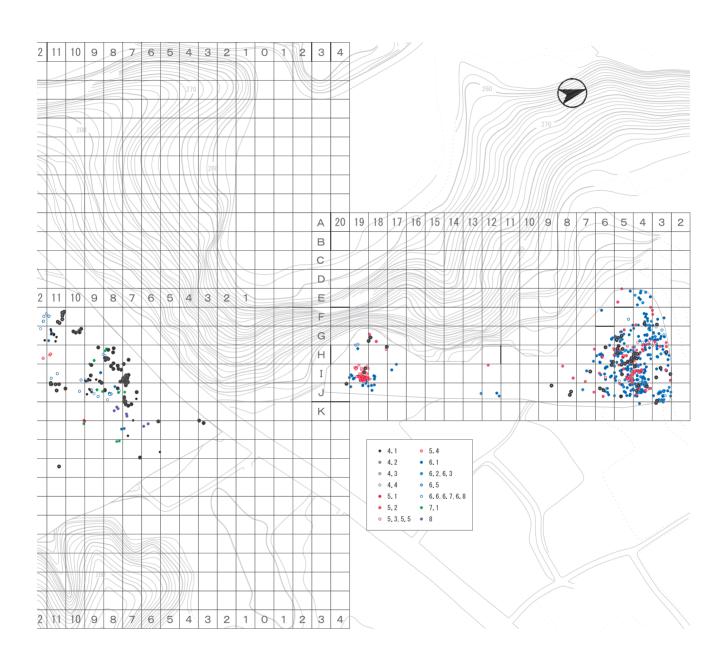
これらの土器群は、他の土器と比べて、それぞれ器形的特徴や調整方法と施文的特徴との間に高い相関関係は認められない特異な土器であり、今後注意を要する。

第5群土器(第264図~第273図409~461)

第5群土器に属する土器は、その施文的特徴および器形的 特徴から、さらに5類に分類できた。

本群に属する土器は層位的には主にⅧ層を中心に出土して





いるが、より下層である哑層や、上層のVI層やV層からも出土しており、地層の横転や後世の撹乱が激しかった区域があることが認められる。

第5群土器第1類土器(分類記号5.1, 第264·265図409~412)

第5群土器第1類土器に属する土器を4点資料化した。

器形的特徴としては、口縁形態は平口縁を呈し、口縁部は若干内弯し、口唇部は水平な平坦面あるいは内傾する平坦面を作出する。また胴部は直線的にすぼまるのが特徴である。

施文的特徴としては、口縁部文様帯から胴部文様帯にかけて、貝殻もしくは櫛歯状工具による斜方向の押引文(条痕文)を横位方向に施した後に、直下の段には合わせて羽状文になるように、斜方向の押引文(条痕文)を横位方向に施すのが、本類細別の最大の特徴である。

調整方法としては、内器面では、ミガキに近い丁寧なナデ 調整を行う土器や、篦状工具によるナデ調整を行う土器が多 くみられた。

本類土器の胎土中鉱物としては、主に輝石や雲母で構成され、粗い粒度の鉱物を含む土器が多いのが特徴である。ここで注目できるのは、赤色の粒子が多く含まれることである。

さて、出土分布図から本類に属する土器は主に、耳取調査区北側地区のうち、特に耳取調査区G~J-4・5区周辺に集中していることを指摘できる(第248図・第262・263図参照)。この分布域は、第5群土器第2類土器や第3類土器の分布域と重なることが指摘できる。

第5群土器第2類土器(分類記号5.2, 第266図~第269図 413~445)

第5群土器第2類土器に属する土器を33点資料化した。

器形的特徴としては、口縁形態が平口縁を呈し、口縁部が直行して口唇部は水平な平坦面を作出する土器(第266図413,422)と、口縁部が若干内弯して口唇部は内傾する平坦面を作出する土器(第269図439,440)とがあることが指摘できる。また、胴部は直線的あるいはやや緩やかにすぼまり、底部は平底を呈するのが特徴である。

施文的特徴としては、口縁部文様帯から胴部文様帯にかけて、貝殻もしくは櫛歯状工具による斜方向の押引文(条痕文)を組み合わせて施した羽状文を、横位方向に巡らすのが、本類細別の最大の特徴である。

調整方法としては、内器面では、最終調整として丁寧なナデ調整やミガキに近い丁寧なナデ調整を行う土器が主体を占めることが挙げられる。また、直前調整として木製工具によるハケ調整の後に、最終調整としてナデ調整を行う土器も少量みられる。この特徴は、第4群土器第3類土器に観られた調整方法に近い状況であることが指摘できる。

本類土器の胎土中鉱物としては、主に角閃石や輝石、雲母で構成されるのが特徴である。

ここで注目できるのは、4点である。

第1に、量的には角閃石を含む土器が多く、黒雲母を含む

土器は少ないことが挙げられる。

第2に、角閃石も黒雲母も共に胎土中に多く含む土器であり、混和材として含ませた可能性の高いことが特記できる。

第3に、粗い粒度の鉱物を含む土器が多いのが特徴であるが、黒雲母を含む土器については、胎土が精選され、微粒のみで構成されていることが指摘できる。

第4に、黒曜石を含む土器が多いことである。また赤色の 粒子が多く含まれるの第5群土器第1類土器と同様であり、 共に今後注意を要する。

さて、出土分布図から本類に属する土器は主に、耳取調査区北側地区のうち、特に耳取調査区 E~J-3~8区周辺と、耳取調査区南側地区のうち、特に耳取調査区 G~I-18・19区周辺とに集中していることを指摘できる(第248図・第262・263図参照)。この分布域は、耳取調査区北側地区では第5群土器第1類土器や第3類土器の分布域と重なり、耳取調査区南側地区では第5群土器第4類土器の分布域と重なることが指摘できる。

第5群土器第3類土器(分類記号5.3, 第270図446~450) 第5群土器第3類土器に属する土器を5点資料化した。

本類に属する土器は、器形的特徴では第5群土器第1類土器や第2類土器に属する土器ではあるが、施文的特徴などの諸属性ではどの類にも帰属し得なかった土器である。今後注意を要する土器として、本類に細別した。

第270図446~448は深鉢形土器の口縁部資料である。

器形的特徴としては、口縁形態が平口縁を呈し、口縁部が直行して口唇部は水平な平坦面を作出する土器(第270図446)と、口縁部が直線的に外に開き口唇部は水平な平坦面を作出する土器(第270図447、448)とがあることが指摘できる。

施文的特徴としては、口縁部文様帯に貝殻もしくは箆状工 具による斜方向の押引文を横位方向に巡らすことが挙げられ る。しかも、第5群土器第1類土器や第2類土器に比べて施 文単位の長さは長く、幅は広いのが特徴である。

調整方法としては、内器面では、直前調整として木製工具によるハケ調整の後に、最終調整としてナデ調整を行う土器であり、なかには初期の調整であるケズリ調整が観られる土器もあった。

本類土器の胎土中鉱物としては、主に角閃石や輝石、雲母 で構成されるのが特徴である。

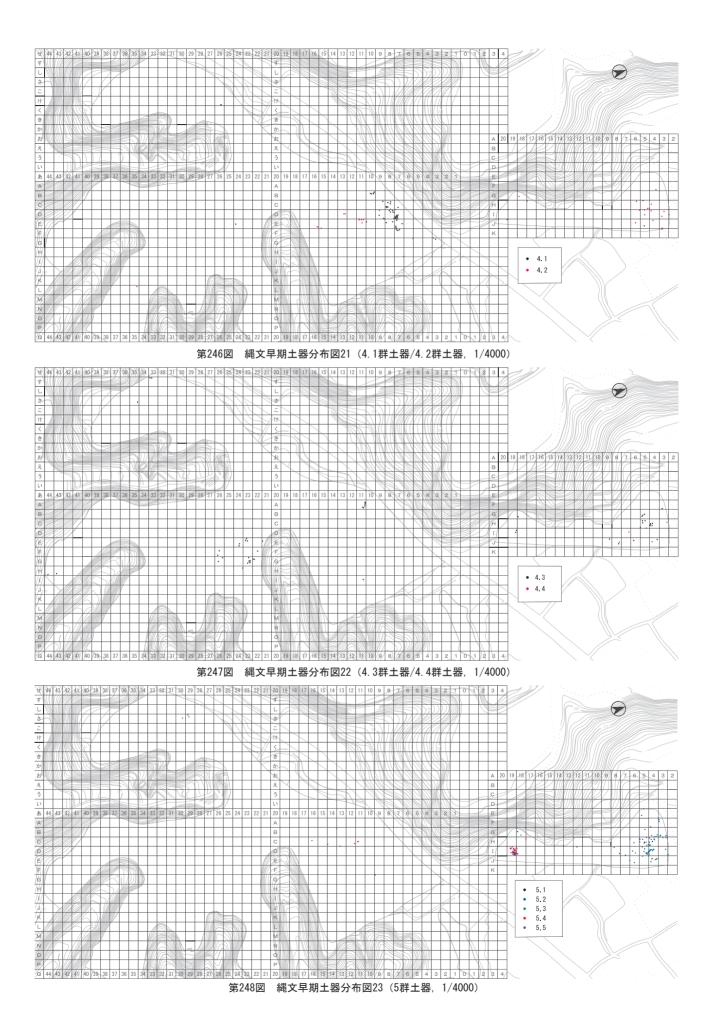
第270図449は底部資料である。

器形的特徴としては、底面が若干上げ底を呈することが、 施文的特徴としては、胴部文様帯にかけて貝殻刺突文を横位 方向に数条施すことが指摘できる。

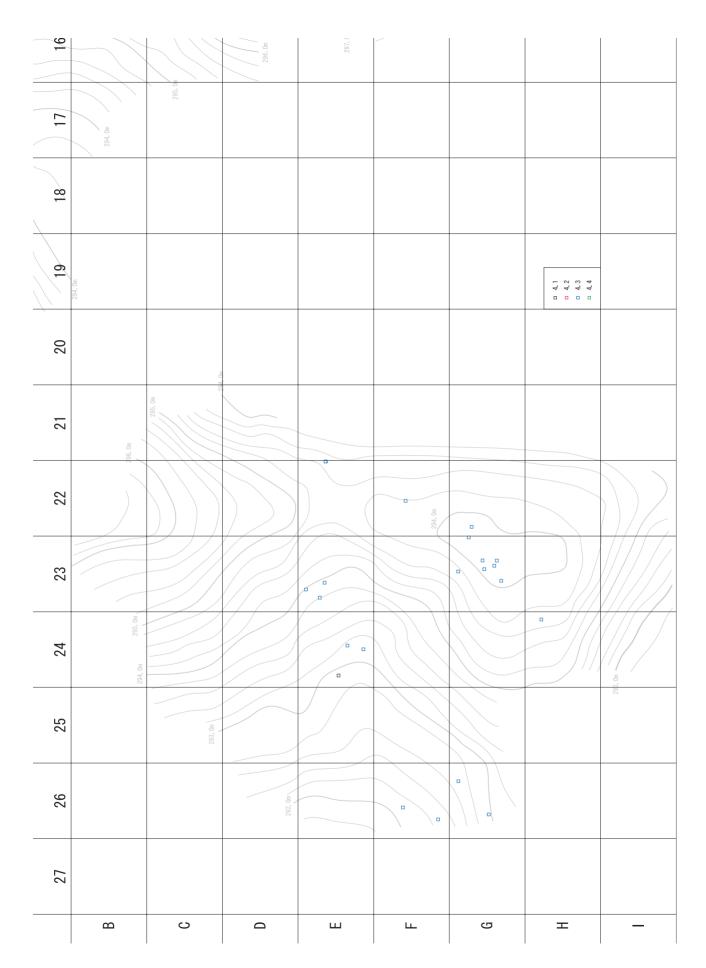
また調整方法としては、内器面では最終調整としてミガキ 調整が、底面ではミガキに近い丁寧なナデ調整が行われてい ることが挙げられる。

本類土器の胎土中鉱物としては、主に角閃石や輝石で構成 され、粗い粒度の鉱物を含む土器であるのが特徴である。

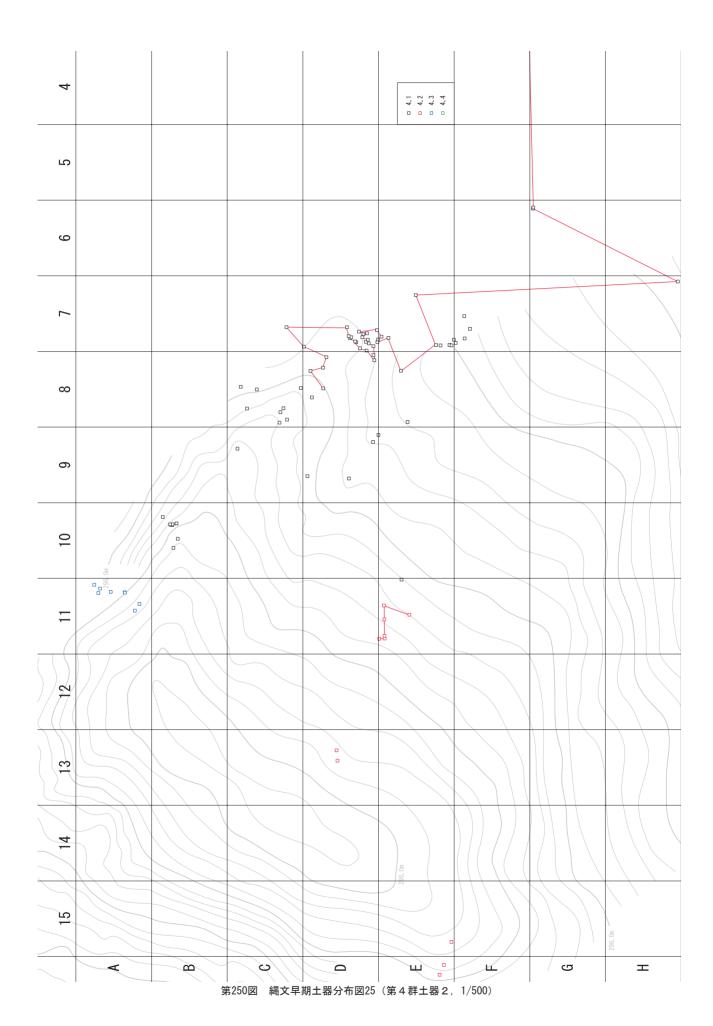
さて、出土分布図から本類に属する土器は主に、耳取調査 区北側地区のうち、特に耳取調査区F~J-3~5区周辺に



- 247 -



第249図 縄文早期土器分布図24 (第4群土器1, 1/500)



- 249 -



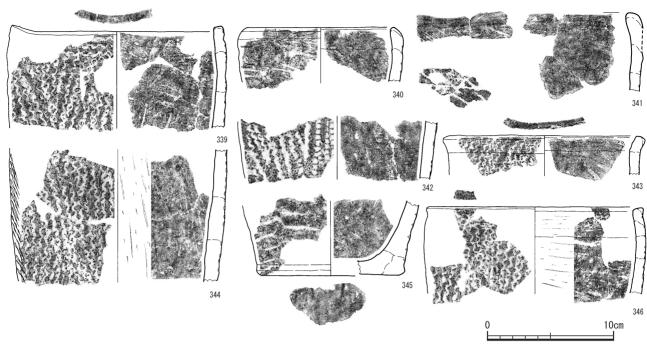


第251図 縄文早期土器実測図 (47) (4.1群土器/桐木調査区出土)

第69表 縄文早期土器観察表 (27) (4群土器-1)

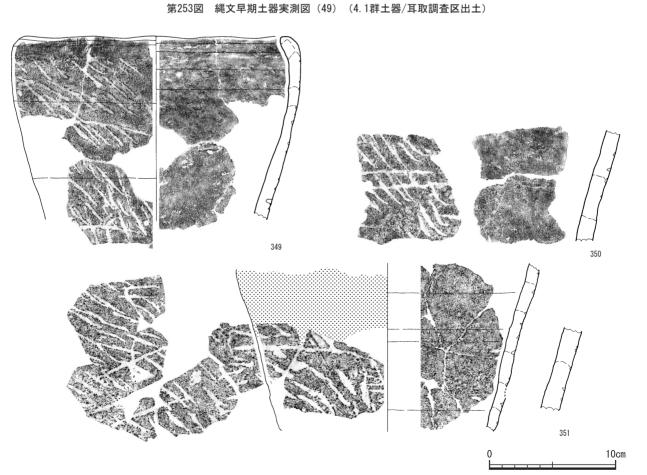
挿図 No	図 No	分類 記号	取上No (グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
251	338	4.1	O2193 (D-8/VII) O40677 (B-8/VII) O40678 (D-8/VIII) O40683 (D-8/VIII) O40729 (D-7/VIII) O41483 (D-7/VIII-T) O41483 (D-7/VIII-T) O41483 (D-7/VIII-T) O41485 (D-7/VIII-T) O41485 (D-7/VIII-T) O42099 (D-8/VIII) O42099 (D-8/VIII-T) O42099 (D-8/VIII-T) O42128 (D-7/VIII-T) O42128 (D-7/VIII-T) O525210 (D-7/VIII-T) O58594 (E-7/VIII-T) O58594 (E-7/VIII-T) O58299 (E-7/	黑.砂粒	丁寧なナデ	-	-

挿図 No	図 No	分類 記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
251	338	4. 1	0.55498 (0-7/VII)	黑.砂粒	丁寧なナデ		

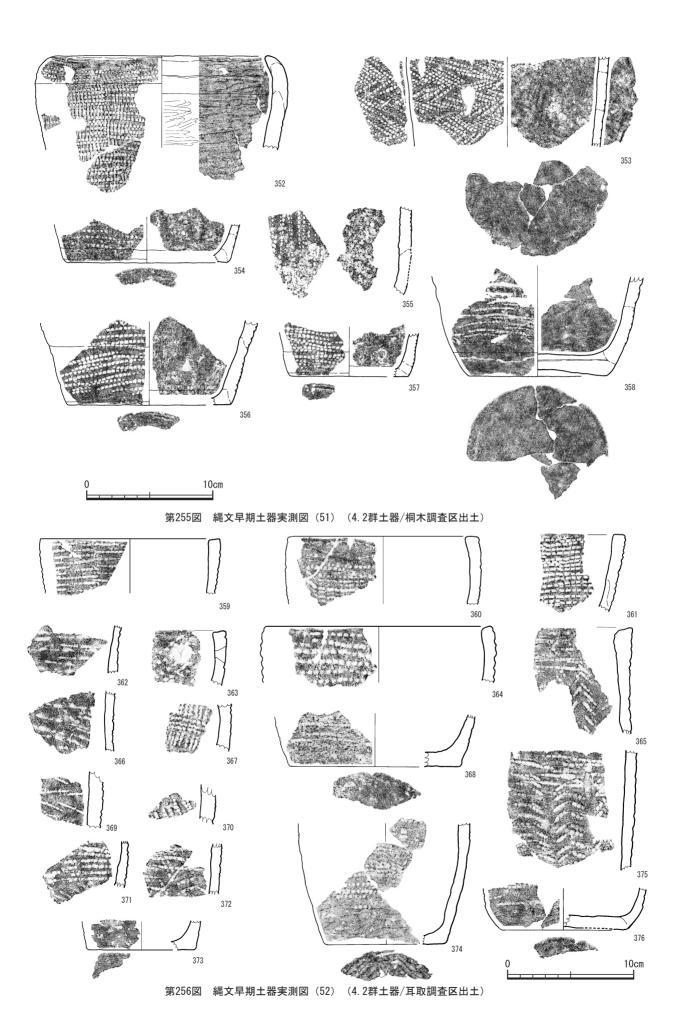


第252図 縄文早期土器実測図 (48) (4.1群土器/桐木調査区出土)

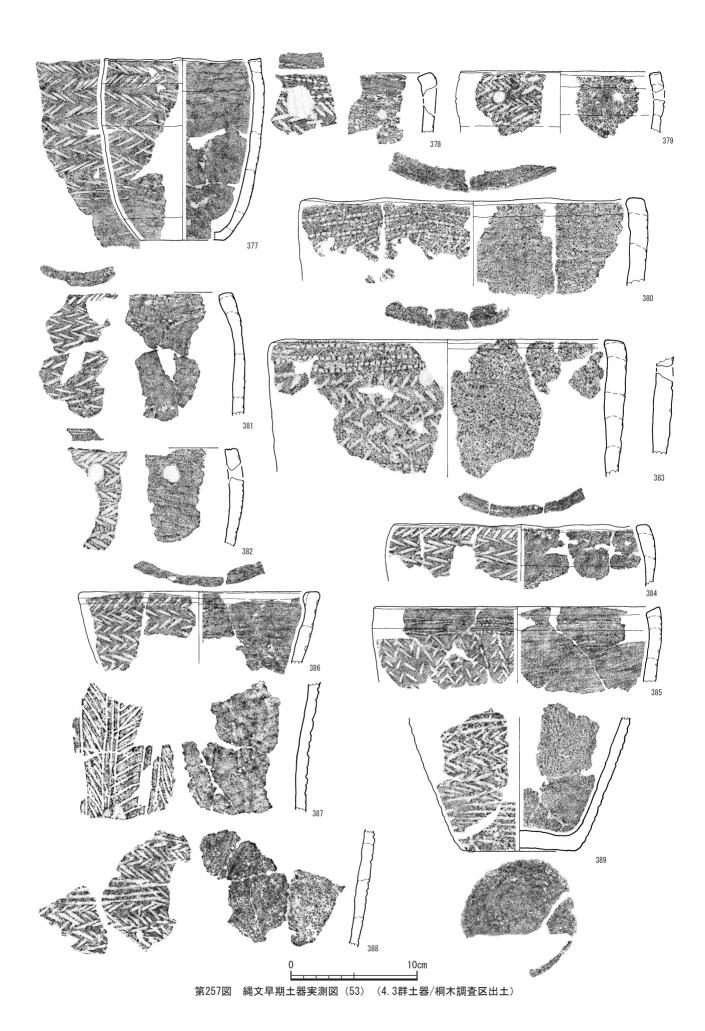




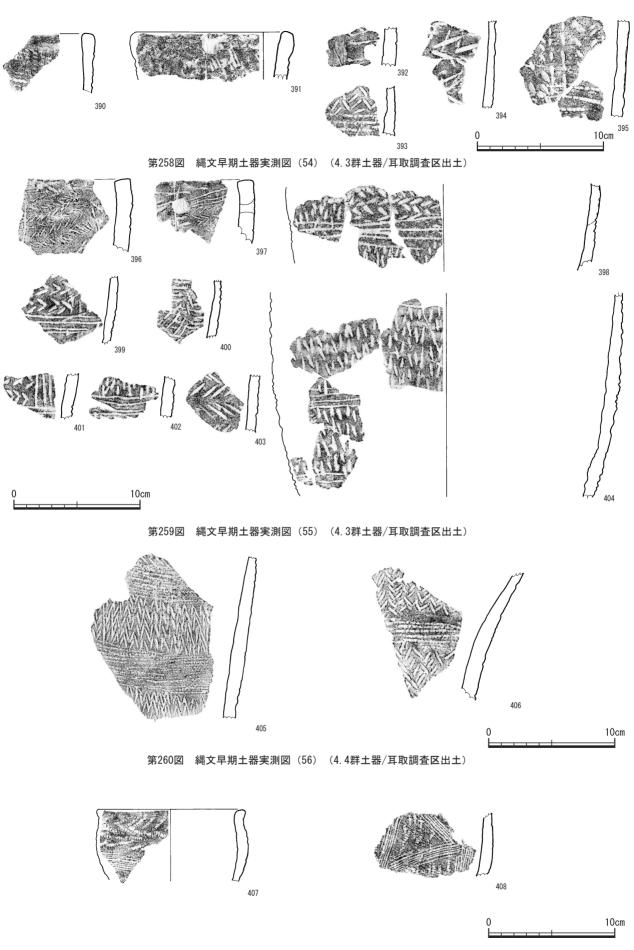
第254図 縄文早期土器実測図 (50) (4.1群土器/桐木調査区出土)



- 252 -



- 253 -



第261図 縄文早期土器実測図 (57) (4.4群土器/耳取調査区出土)

第71表 縄文早期土器観察表(29)(4群土器-3)

挿図 図 No No 252 339 取上No(グリッド/層位) 胎十 調整(内) 調整(外) 備者 ○40956 (C-8/VII) ○40967 (C-8/VII) ○41409 (C-8/VII) 黑. 砂粒 O42211 (C-8/VIII) O68224 (E-24/VIII) 252 340 4 1 角,細粒 252 341 4.1 O42403 (B-10/VII) 角,細粒 ナデ, 丁寧なナデ ロ唇部:ナテ 252 342 4.1 黒. 細粒 O59182 (F-7/VIII F) ハケ→ナデ 混和材:里雪舟 252 343 4 1 ○38448 (F-11/VIII) 鱼 里 外面スス付着 内面スス付着 252 344 4.1 240954 (C−8 /VIII) 里 砂約 縦ケズリ→ナデ 252 345 4.1 輝,細粒 ○42401(8-10/VIII ○40668 (D-8/VII) ○40947 (C-8/VIII) ○50245 (D-9/VIII) ○60213 (E-8/VIII) ▲969 (J-5/IIIb) 252 346 4 1 ナデ, ケズリ→ナデ 黑. 砂粒 353 347 4.1 黒. 輝. 細粒 横工具ナデ 混和材:黒雲母 353 348 4.1 ▲ 13833 (H-5/VII) 鱼 細粒 ○42411 (B-10/Ⅷ下) ○52189 (B-10/Ⅷ) ○一括 (-/-) ○98 (B-10/Ⅷ) 254 349 4.1 254 350 4.1 鱼. 細粒 横ハケ→丁寧なナデ 指頭痕→ナデ 254 351 4.1 鱼 細粒 縦ハケ→丁室なナテ O42401 (B−10/VII) O42404 (B-10/VII) 042459 (B-10/VII下) 042459 (B-10/VII下) 255 352 4 2 34856 (F-11/VII) ハケ→丁寧かナデ 湿和材:里雪舟 ⊃37151 (F-11/VIII) 38354 (E-11/VIII.E) 38364 (E-11/VIII) 38393 (E-11/VII横転) 255 353 4 2 里 砂粒 ハケ→丁室なナデ ⊃51586 (D-13/VIII) 052109 (D-13/VIII) 輝, 細粒, 白粒 機ケズリ→ナデ, 横ハケ→ナデ 砂粒, 雲 ケズリ→粗いナデ 255 354 4.2 D53690 (E−16/VII) 255 355 4.2 O68120 (L-35/VII下 255 356 4.2 O53688 (E−16/VII) 輝. 細粒 255 357 4.2 ○53686 (E-15/VII) 横ハケ→ナデ 底部内面 255 358 4.2 ◎一括(-/-) 丁室なナデ 丁室なナー 角. 輝. 細粒 板状貼付 混和材:角閃石 256 359 4.2 ▲ 9208 (J-6/VII) 角, 輝, 細粒 ハケ→丁寧なナテ ▲10207 (I-5/VII) ▲10642 (I-4/VII) 256 360 4.2 黒、輝、細粒 ハケ→丁寧なナラ 角, 輝, 細粒 ハケ→丁寧なナデ 256 361 4.2 ▲19455 (-/ 256 362 4.2 ▲3315 (G-18/VIa) 混和材:黒雲母 黒. 輝. 細粒 ハケ→ナデ 256 363 4.2 ▲16076 (H-6/VII下) 黒,輝,細粒 ハケ→丁寧なナテ 混和材: 黒雲母 ▲13675 (I-6/Ⅷ) 256 364 4.2 里 輝 細粒 ハケ→ナテ ▲13700 (I-6/VII) 256 365 4.2 鱼 緇 砂粒 ハケ→ナテ ▲12758 (J-3/VII) ▲12759 (K-3/VIII) 256 366 4.2 黒,輝,細粒 ハケ→丁寧なナデ 混和材:里雪舟 256 367 4.2 黒,輝,細粒 ハケ→丁寧なナデ 混和材: 黒雲母 256 368 4.2 ▲8108 (I-3/VII) 角,輝,砂粒 ハケ→ナデ 砂粒多量 256 369 4 2 ▲ 11072 (J-20/VII) 鱼 細粒 縦ケズリ→ナテ 256 370 4.2 ▲19507 (-/-) 角,輝,細粒 ハケ→丁寧なナテ 256 371 4 2 ▲ 5711 (H_12 / 1π) 黒,輝,細粒 縦ケズリ→ナデ 256 372 4.2 ▲12752(I-3/Ⅷ樹根) 角,輝,砂粒 ハケ→ナデ 256 373 4.2 ▲14358(H-4/VI樹根) 黒,輝,細粒 ミガキに近い丁寧なナ 底面:丁寧なナ ▲10686 (I-5/VII) ▲13919 (H-5/VII) ▲13923 (H-5/VII) ▲8115 (I-3/VII) 256 374 4.2 黒,輝,細粒 丁寧な斜ナデ 底面:ミガキに 近いナデ 角, 輝, 砂粒 ハケ→ナラ 砂粒多量 256 376 4.2 角,輝,細粒 ハケーナテ

第72表 縄文早期土器観察表 (30) (4群土器-4)

挿図 No	図 No	分類 記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
257	377	4. 3	◎18017 (H-44/VII) ◎18026 (H-43/VII)	黒,砂粒	ハケ→ナデ	丁寧なナデ	混和材:黒雲母
257	378	4. 3	O68291 (G-26/VIII)	輝,黒,砂粒	ハケ→粗いナデ	-	細粒多量
257	379	4. 3	○68909 (G-23/VII)	輝,雲,砂粒	ナデ	-	砂粒多量,補償
							孔:外径9,5mm, 内径6mm
257	380	4. 3	〇68298 (G-26/VII) 〇68523 (G-22/VII) 〇69504 (F-22/VII下)	黒,砂粒	ハケ→ナデ	-	砂粒多量
257	381	4. 3	O70758 (E−22/VII) O70759 (E−22/VII)	黑,砂粒	横ハケ→丁寧なナデ	ロ唇部:丁寧な ナデ	混和材:黒雲母 細粒多量
257	382	4. 3	O67809 (I-11/VIII)	角	斜ナデ	-	補修孔:外径 16mm, 内径 6mm
257	383	4. 3	O68212 (F-26/Ⅷ) O68287 (F-26/Ⅷ)	輝,雲,砂粒	-	-	砂粒多量,補償孔
257	384	4. 3	O68262 (E-23/VII) O68265 (E-23/VII) O68269 (E-23/VII)	黒,砂粒	横ハケ→丁寧なナデ	口唇部:ナデ	混和材:黒雲母
257	385	4. 3	◎10201 (A-11/V) ◎11629 (A-11/V) ◎11660 (A-11/V) ○42309 (A-11/V)	角,細粒	丁寧なナデ	口唇部:ナデ	-
257	386	4. 3	〇68969 (G-23/VII) 〇70137 (H-24/VII下)	黑,砂粒	丁寧な横ナデ	-	混和材:黒雲母
257	387	4. 3	●1833 (す-33/VII) ●50174 (す-33/VII) ●50179 (さ-35/X)	黒,輝,細粒	ナデ	-	混和材:黒雲母 細粒多量
257	388	4. 3	O68644 (G-23/VII) O68791 (G-23/VII)	黒,砂粒	ナデ	-	混和材:黒雲母 細粒多量
257	389	4. 3	○68650 (G-23/VII) ○70612 (G-23/VIII) ○70966 (G-23/VIII)	白粒,黒,砂粒	縦ケズリ→ナデ, ナデ	ケズリ→ナデ	混和材: 黒雲母 砂粒多量
258	390	4. 3	▲8896 (H-4/VII)	黒,輝,細粒	ミガキに近い丁寧なナデ	ロ唇部: 丁寧なナデ	混和材:黒雲母
258	391	4. 3	▲13678 (H-6/VII) ▲15931 (G-5/VIII)	角,輝,細粒	縦ケズリ→ナデ	-	-
258	392	4. 3	▲12788 (H-4/VIII)	黒,輝,細粒	ハケ→ナデ	-	-
258	393	4. 3	▲18200 (J-8/X下)	角,輝,細粒, 赤粒	_	-	-
258	394	4. 3	▲3312 (G-18/VII)	黒,輝,砂粒	丁寧なナデ	-	砂粒多量
258	395	4. 3	▲9211 (J-4/VIII)	輝,雲,砂粒	丁寧なナデ	-	砂粒多量
259	396	4. 3	▲10712 (H-5/VII)	黒,輝,細粒, 赤粒	ミガキに近い丁寧なナデ	口唇部: 丁寧なナデ	混和材:黒雲母
259	397	4. 3	▲9542 (F-3/VII)	黒,輝,細粒, 赤粒	ミガキに近い 丁寧なナデ	ロ唇部: 丁寧なナデ	混和材:黒雲 母,補修孔:外 径13mm,内径 7mm
259	398	4. 3	▲7100 (J-6/VIa) ▲7837 (G-5/VIa) ▲10778 (H-5/VII) ▲19448 (-/-)	黑,砂粒,赤粒	丁寧なナデ	-	混和材:黒雲母 砂粒多量
259	399	4. 3	▲9689 (G-5/VII)	黒,輝,細粒, 赤粒	ミガキに近い丁寧なナデ	-	混和材:黒雲母
259	400	4. 3	▲1983 (I-19/VII) ▲1996 (I-19/VIII)	黑,砂粒	丁寧なナデ	-	混和材:黒雲母
259	401	4. 3	▲10624 (H-4/VII)	黒,雲,細粒, 赤粒	丁寧なナデ		混和材:黒雲母
259	402	4. 3	▲10766 (H-5/VII)	黒,雲,砂粒, 赤粒	丁寧なナデ	-	混和材:黒雲母
259	403	4. 3	▲15255 (J-9/VIII)	黑,砂粒,赤粒	丁寧なナデ	-	混和材:黒雲母 砂粒多量
259	404	4. 3	▲10610 (H-4/VII) ▲10714 (H-5/VII) ▲10738 (H-5/VII) ▲12608 (H-5/XII) ▲19424 (-/-) ▲19505 (-/-)	黒,雲,砂粒, 赤粒	丁寧なナデ	-	混和材:黒雲母 砂粒多量
260	405	4. 4	▲19506 (-/-)	角,輝,砂粒	ハケ→ナデ	-	-
260	406	4. 4	▲9085 (J-8/VIII)	角,輝,細粒	ハケ→ナデ	-	-
261	407	4. 4	▲7270 (I-7/IV) ▲17828 (J-4/VIII)	黒,輝,雲,細粒		-	混和材:黒雲母 胎土精選
261	408	4. 4	▲9324 (H-3/VII)	黒,輝,雲,細粒	丁寧なナデ	-	混和材:黒雲母胎土精選

集中していること(第248図・第262・263図参照)や、この分布域が耳取調査区北側地区では第5群土器第1類土器や第2類土器の分布域と重なることが指摘できる。

第5群土器第4類土器(分類記号5.4, 第271図451~454) 第5群土器第4類土器に属する土器を4点資料化した。

器形的特徴としては、口縁形態が平口縁を呈し、口縁部が直行して口唇部は水平な平坦面を作出する土器(第271図452)と、口縁部が若干内弯して口唇部は内傾する平坦面を作出する土器(第271図451,453,454)とがあることが指摘できる。また、胴部は直線的にすぼまり、底部は平底を呈するのが特徴である。これらの特徴は第5群土器第2類土器と共通する。

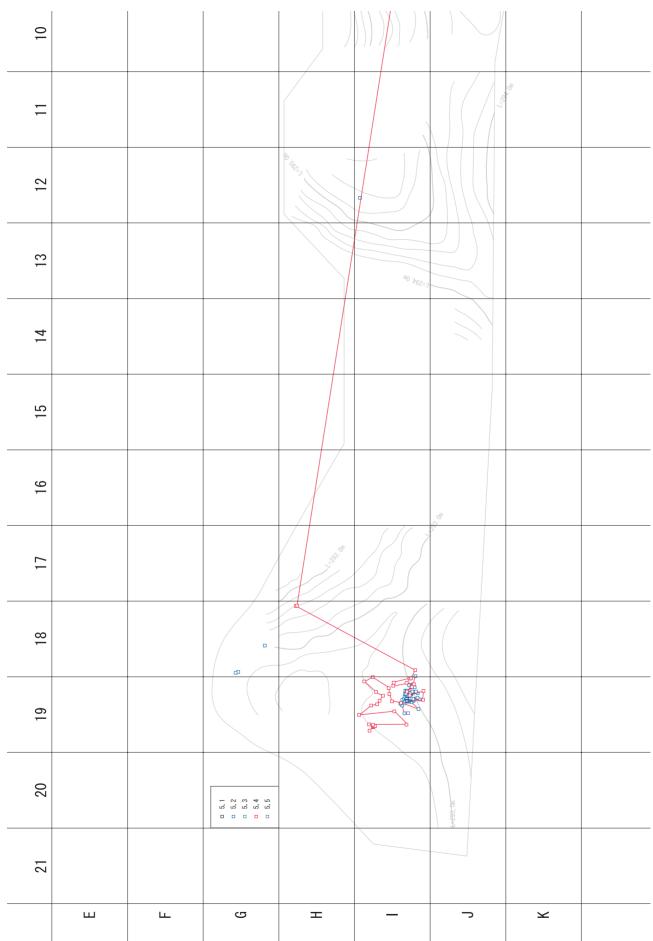
施文的特徴としては、口縁部文様帯から胴部文様帯にかけて、貝殻腹縁部により流水状の押引文(条痕文)を縦位方向あ

るいは斜方向に施すのが、本類細別の最大の特徴である。

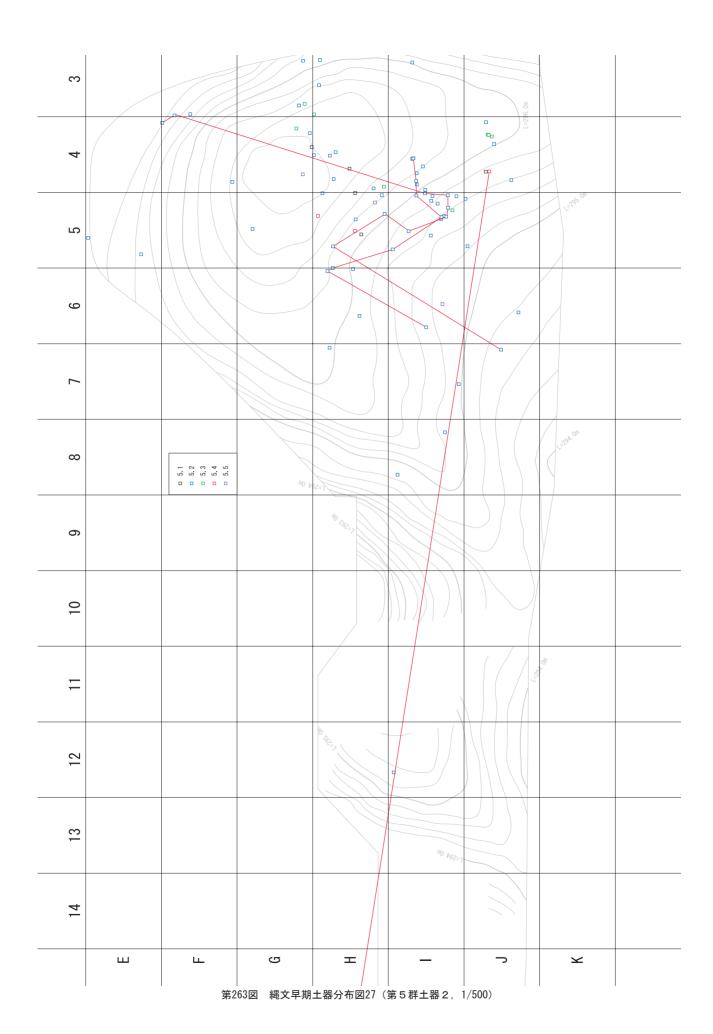
調整方法としては、内器面では、最終調整として丁寧なナデ調整やミガキに近い丁寧なナデ調整を行う土器が主体を占めることが挙げられる。また、直前調整として木製工具によるケズリ調整やハケ調整の後に、最終調整としてナデ調整を行う土器も少量みられる。この特徴は、第5群土器第2類土器や第4群土器第3類土器に観られた調整方法に近い状況であることが指摘できる。

本類土器の胎土中鉱物としては、主に角閃石や輝石、雲母で構成されるのが特徴である。また胎土が精選され、細かい 粒度の鉱物を含むか、微粒のみで構成される土器が多く、第 5群土器のなかでも、胎土が精選されている土器群である。

さて、出土分布図から本類に属する土器は主に、耳取調査 区南側地区のうち、特に耳取調査区 I-18・19区周辺と、桐



第262図 縄文早期土器分布図26 (第5群土器1, 1/500)



- 257 -

木調査区北側地区のうち、特に桐木調査区B・C-11~16区 周辺とに集中していることを指摘できる(第248図・第262・ 263図参照)。この分布域は、耳取調査区南側地区では第5群 土器第2類土器の分布域と重なり、桐木調査区北側地区では 第5群土器のなかでは重なる土器がないことが指摘できる。

第5群土器第5類土器(分類記号5.5, 第272·273図455~461)

第5群土器第5類土器に属する土器を7点資料化した。 内外面ともに無文の土器である。いずれも胴部下半から底 部にかけての資料であり、全体は不明である。器形的特徴 としては、胴部は直線的あるいはやや緩やかにすぼまり、 底部は平底を呈するのが特徴である。調整方法としては、内 器面では、最終調整としてナデ調整を行う土器が主体を占め ることが挙げられる。直前調整として木製工具によるハケ調 整を行う土器や、ケズリ調整の痕跡が観られることが指摘で きる。本類土器の胎土中鉱物としては、主に輝石、雲母で構 成され、特に胎土中に粗い粒度の鉱物を多く含むのが特徴で ある。また、角閃石を含む土器と黒雲母を含む土器とがある ことが指摘できる。さて、出土分布図から本類に属する土器 は、主に耳取調査区北側地区のうち、特に耳取調査区G~I -4~6区周辺と、主に桐木調査区西側地区のうち、特に桐 木調査区さ-29~30区周辺に集中していることを指摘できる (第248図・第262・263図参照)。

第6群土器(第282図~第343図462~768)

第6群土器に属する土器は、押型文土器である。

本群に属する土器は層位的には主にVII層を中心に出土している。また、より下層であるVII層や、上層のVII層やV層からも出土しており、地層の横転や後世の撹乱が激しかった区域があることが認められる。

本群に属する土器は、下記のように器形的特徴から、さら に8類に分類できた。

第1類土器は口縁部内面が屈曲しない土器である。

第2類土器は口縁部内面が弱く屈曲する土器である。

第3類土器は口縁部内面が屈曲する土器である。

第4類土器は特殊土器である。

第5類土器は口縁部が外に開き、胴部外面が弯曲する土器 である。

第6類土器は口唇上端部が内傾する平坦面を作出する土器である。

第7類土器は円筒形土器に押型文を施す土器である。

第8類土器は円筒形条痕文土器に押型文を施す土器である。

以下順次、報告を行うことにする。

第6群土器第1類土器(分類記号6.1, 第282図~第308図 462~624, 第318図~第320図682~692)

第6群土器第1類土器に属する土器を174点資料化した。 第6群土器第1類土器は、口縁部内面が屈曲しない土器を 指標とする。さらに、器形的特徴としては、口縁形態は概ね 平口縁を呈し、口縁部は外反し、胴部中央部で若干膨らみ、 胴部下半部ではすぼまり、底部は平底になることが、共通し た特徴として指摘できる。

本類に属する土器は、さらに文様構成などの施文的特徴から6タイプに分類ができる。

以下順次、報告を行うことにする。

第6群土器第1類土器第1タイプ土器(分類記号6.11, 第282図~第287図462~502)

器形的特徴としては、口縁部は緩やかに外反し、胴部中央部は若干膨らみ、胴部下半部は直線的にすぼまり、底部は平底になることが指摘できる。また口縁形態には、平口縁を呈する土器(第282図462~464)と、波状口縁を呈する土器(第282図465~468)とがあることが挙げられる。

施文的特徴としては、口縁部文様帯から胴部文様帯にかけて外面全面に横位方向の押型文を施すのが、本タイプ土器分類の最大の指標である。また口縁部内面端部に「原体条痕」を施し、直下に横位方向の押型文を数条巡らす土器である。

また本タイプ土器には、山形押型文を施す第1種土器(分類記号6.111、第282・283図462~477、第285図486~493)と、 楕円押型文を施す第2種土器(分類記号6.112、第284図478~485、第286・287図494~502)との2種類の土器がある。

ここで注目できるのは、本タイプ土器に施される押型文は、第1類土器第1タイプ土器以外の類やタイプに帰属する土器に施される押型文より、文様が微細なことが挙げられる

調整方法としては、内器面では、直前調整として木製工具によるハケ調整の後に、最終調整としてナデ調整を行う土器が主体を占めることが挙げられる。また、ケズリ調整の痕跡をとどめる土器や、直前調整として箆ナデ調整を行う土器や、ミガキに近い丁寧なナデ調整を行う土器も観られた。

ここで注目できるのは、第6群土器第1類土器全般に共通 して、調整方法に大きな違いが観られる特徴である。

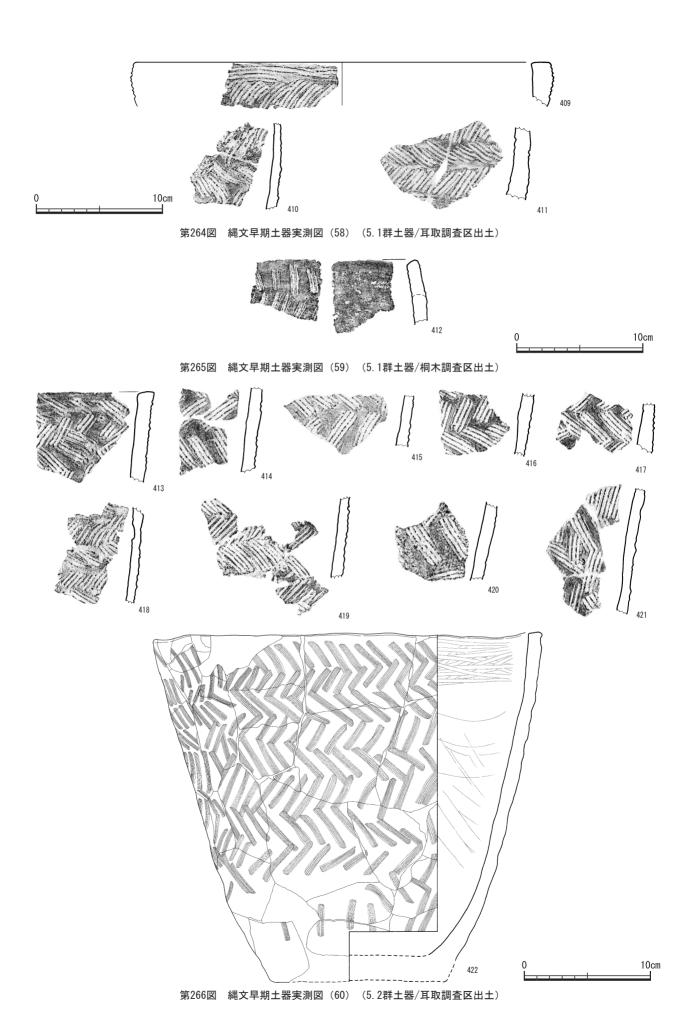
この調整方法において大きな違いが生じる原因の1つとして、部位による違いが挙げられる。口縁部内面は丁寧なナデ調整まで行い、胴部上半では直前調整として縦ケズリを行った後に、最終調整として粗いナデ調整を行い、胴部下半では直前調整として縦位方向もしくは斜位方向のケズリ調整の後に、最終調整として丁寧なナデ調整を行う土器が、本タイプ土器に帰属する土器のなかには観られる。この状況が普遍性があることなのか、今後注意を要する。

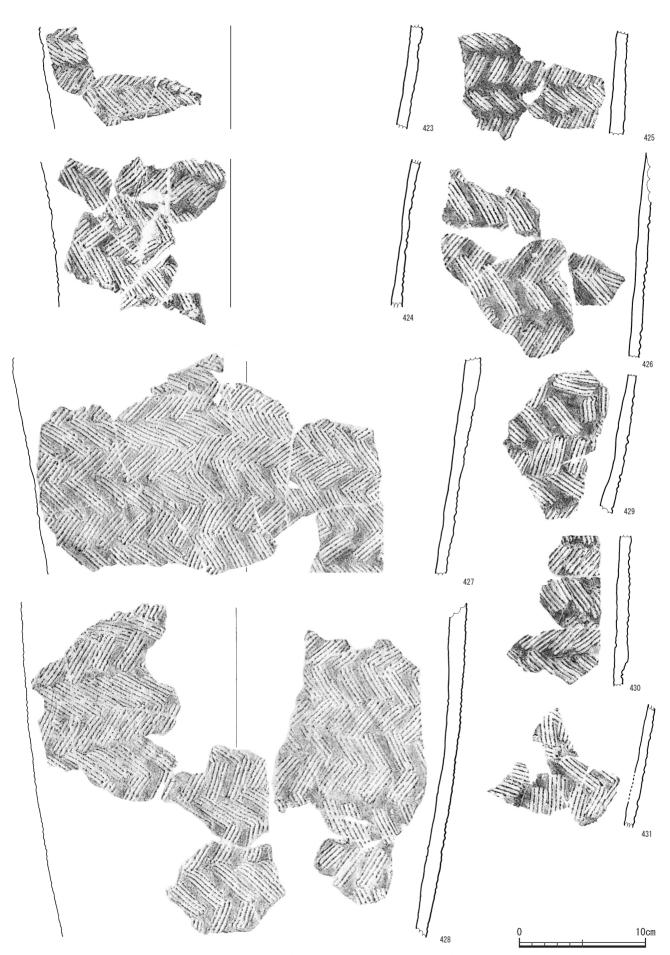
さらに外器面では、押型文施文後にナデ調整を行のは、第 6群土器では本タイプ土器だけであり、注目できる。

本タイプ土器の胎土中鉱物としては、主に角閃石や輝石で 構成されるのが特徴である。注目できるのは3点である。

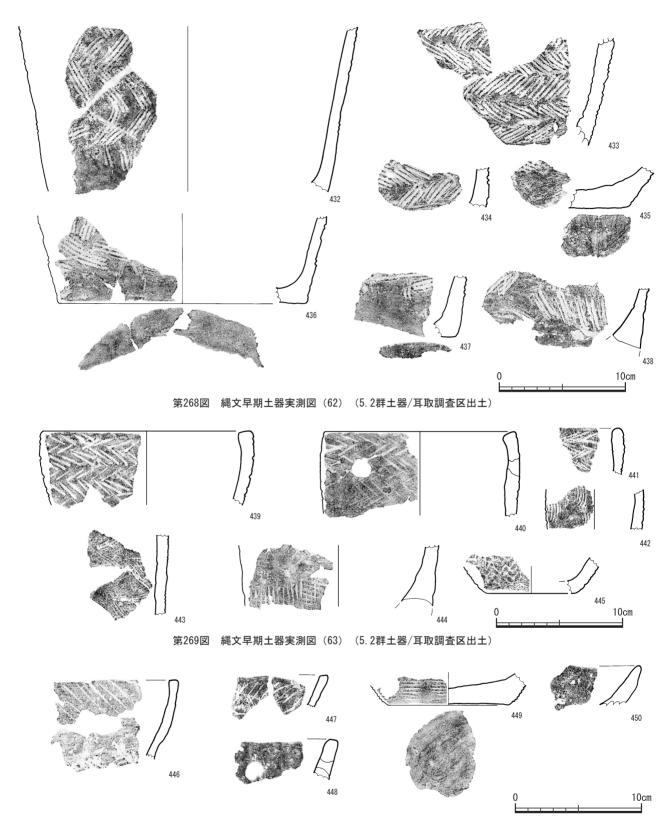
まず量的には、角閃石を含む土器が多く、黒雲母を含む土器は少ないことが挙げられる。

つぎに, 角閃石も黒雲母も共に胎土中に多く含む土器であり, 混和材として含ませた可能性の高いことが特記できる。





第267図 縄文早期土器実測図 (61) (5.2群土器/耳取調査区出土)



第270図 縄文早期土器実測図 (64) (5.3群土器/耳取調査区出土)

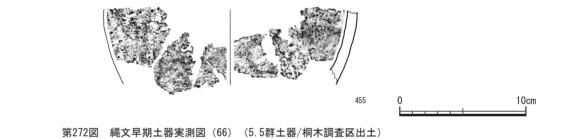
さらに、粗い粒度の鉱物を含む土器が多いのが特徴であ り、しかも胎土中に含まれる量が特に多い土器も多数観られ た。また、黒雲母を含む土器については、胎土が精選され、 微粒のみで構成されていることが指摘できる。

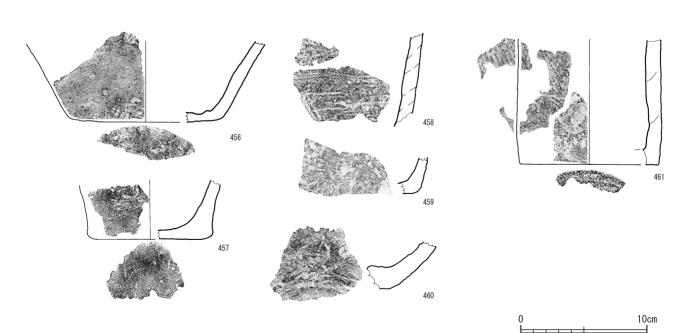
胎土中鉱物についての以上の特徴は、量的な割合では若干 の差が認められるものの、第5群土器第2類土器や、第6群 土器第1類土器のうち第1タイプ土器から第6タイプ土器ま で全般に共通している特徴である。

さて、出土分布図から本タイプに属する土器は主に、耳 取調査区北側地区のうち、特に耳取調査区F~J-3~6区 周辺と、耳取調査区南側地区のうち、特に耳取調査区Ⅰ・ J-17~19区周辺とに集中していることを指摘できる(第279



第271図 縄文早期土器実測図 (65) (5.4群土器/耳取調査区出土)





第273図 縄文早期土器実測図 (67) (5.5群土器/耳取調査区出土)

第73表 縄文早期土器観察表 (31) (5群土器-1) 第74表 縄文早期土器観察表 (32) (5群土器-2)

יינא	3表	小吧.	文早期土器観	宗仪()	1) (5群土器-	1 /	
挿図 No	図 No	分類 記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
64		5. 1	▲9133 (J-4/VIII)	輝,雲,砂粒,赤粒	ミガキに近い丁寧なナデ	_	-
64	410	5. 1	▲8919 (H-4/VII)	輝.雲.角.	横ケズリ→ハケナデ	-	-
64	411	5. 1	▲9440 (G-4/VII) ▲10626 (H-5/VII)	砂粒,赤粒輝,雲,砂粒,	ミガキに近い丁寧なナデ	_	P0871と同一
65	412	5. 1	▲ 13286 (H–5/VII) ○54901 (C–13/VII)	赤粒 角,細粒	横へラナデ	ヘラ条痕ナデ	個体 外面スス付着
66	413	5. 2	▲9944 (H-3/VII)	輝,角,雲,砂粒	ハケ→ナデ	ロ唇部:ナデ ロ唇部: 丁寧なナデ	-
66	414	5. 2	▲12968 (I-8/VII) ▲13193 (G-5/VII)	角,輝,雲,細粒	丁寧なナデ	-	-
66	415	5. 2	▲19495 (-/-) ▲19433 (-/-)	輝,角,雲,細粒 ,赤粒	丁寧なナデ	_	_
66	416	5. 2	▲19436 (-/-)	輝,角,雲,細粒 ,赤粒	丁寧なナデ	-	内面スス付着
66	417	5. 2	▲13664(I-4/VII)	角,輝,砂粒	丁寧なナデ	-	-
66	418	5. 2	▲8885 (H-4/VIa) ▲10516 (F-3/VII)	輝,雲,砂粒, 赤粒	ミガキに近い丁寧なナデ	_	_
66	419	5. 2	▲6891 (I-12/X VI) ▲8873 (H-4/VIa) ▲9300 (G-3/VII) ▲10615 (H-4/VII)	輝,雲,砂粒, 赤粒	横ハケ→粗いナデ	-	-
66	420	5. 2	▲-(-/-)	輝,角,雲,細粒	丁寧なナデ	-	内面スス付着
66	421	5. 2	▲9197 (J-5/VII)	, 赤粒 角, 輝, 雲, 細粒	丁寧なナデ	-	内面スス付着
66	422	5. 2	▲19490 (-/-) ▲1914 (I-19/Ⅷ)	輝,角.雲.砂粒	ミガキに近い丁寧なナデ	口唇部:ミガキ	内面スス付着
			A1924 (1-19/VIII) A1936 (1-19/VIII) A1936 (1-19/VIII) A1936 (1-19/VIII) A1937 (1-19/VIII) A1937 (1-19/VIII) A1937 (1-19/VIII) A1942 (1-19/VIII) A1953 (1-19/VIII) A1953 (1-19/VIII) A1955 (1-19/VIII) A2103 (1-19/VIII) A2103 (1-19/VIII) A2104 (1-19/VIII) A2110 (1-19/VIII) A21110 (1-19/VIII) A21110 (1-19/VIII) A21112 (1-19/VIII) A2113 (1-19/VIII) A2113 (1-19/VIII) A2113 (1-19/VIII) A2113 (1-19/VIII) A2113 (1-19/VIII) A2124 (1-19/VIII) A2125 (1-19/VIII) A2125 (1-19/VIII) A2125 (1-19/VIII) A2125 (1-19/VIII) A2125 (1-19/VIII) A2125 (1-19/VIII) A2137 (1-19/VIII) A2137 (1-19/VIII) A2138 (1-19/VIII) A2138 (1-19/VIII) A2138 (1-19/VIII) A2138 (1-19/VIII) A2138 (1-19/VIII) A2138 (1-19/VIII) A2458 (1-19/VIII) A2458 (1-19/VIII) A2458 (1-19/VIII) A2578 (1-19/VIII) A2578 (1-19/VIII) A2578 (1-19/VIII) A2578 (1-19/VIII) A2577 (1-19/VIII) A2716 (1-19/VIII) A2717 (1-19/VIII) A2717 (1-19/VIII) A2717 (1-19/VIII) A2717 (1-19/VIII) A2717 (1-19/VIII) A3417 (1-19/VIII) A3417 (1-19/VIII) A3417 (1-19/VIII) A3418 (1-19/VIII) A3417 (1-19/VIII) A3418 (1-19/VIII) A3417 (1-19/VIII) A3418 (1-19/VIII) A3419 (1-19/VIII) A3418 (1-19/VIII) A3418 (1-19/VIII) A3418 (1-19/VIII) A4174 (1-19/VIII) A			に近い丁寧なナ	
:67	423	5. 2	▲3419 (I-19/VII) ▲9307 (G-3/VII) ▲9437 (G-4/VII)	輝, 角, 雲, 砂粒	横ハケ→粗いナデ	-	-
67	424	5. 2	▲10606 (H-4/VII) ▲8963 (I-5/VIa)	角,輝,砂粒	丁寧なナデ	_	混和材:角閃石,
			▲10198 (1-5/VII) ▲10664 (1-4/VII) ▲12741 (H-5/VII) ▲12880 (1-5/VII) ▲13100 (1-6/VII) ▲13657 (1-4/VII) ▲15990 (H-6/VIII)	1. 1. Pres. 82 T.L.			内面スス付着
67	425	5. 2	▲8111 (I-3/VII)	角,輝,雲,砂粒	丁寧なナデ	-	黒耀石
67	426	5. 2	▲17833 (J-4/VII下) ▲10670 (I-5/VII) ▲10695 (I-5/VII) ▲12901 (H-7/X)	角,輝,雲,砂粒	丁寧なナデ	-	-
67	427	5. 2	▲19498 (-/-) ▲12659 (H-6/VII)	角,輝,砂粒	丁寧なナデ	_	混和材:角閃石.
u I	421	J. Z	▲ 12659 (H-6/VII) ▲ 12698 (I-4/VII) ▲ 13666 (I-4/VII) ▲ 18045 (J-6/VII))丹, 嶂, 眇杣	1 <i>学</i> ′4丿T		混和材: 角閃石, 内面スス付着
67	428	5. 2	▲10199 (1-5/VII) ▲10517 (F-3/VIII) ▲10517 (F-3/VIII) ▲10665 (1-5/VIII) ▲10665 (1-5/VIII) ▲12833 (F-4/VIII) ▲12835 (F-5/VIII) ▲12895 (1-5/VIII) ▲12895 (1-5/VIII) ▲13232 (H-5/VIII) ▲13494 (-7/VIIIT) ▲19494 (-7/-)	角,輝,砂粒	丁寧なナデ	-	混和材: 角閃石, 内面スス付着

<i>אי</i> יה	71X	, me.	人十为工品玩	77.1X (U.	2/ (04十二十五十	2)	
挿図 No	図 No	分類 記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
267	429	5. 2	▲19430 (-/-)	角,輝,砂粒	丁寧なナデ	-	混和材:角閃石,
267	430	5. 2	▲19431 (-/-) ▲10133 (E-5/VII) ▲16398 (H-5/VII)	輝,角,雲,砂粒	横ハケ→粗いナデ	-	内面スス付着
207	404	F 0	▲19504 (-/-)	77 AM TI AL			W 7-11 7 BB
267	431	5. 2	▲8972 (1-5/VII) ▲8979 (1-5/VII) ▲8980 (1-5/VII) ▲16148 (J-4/X下) ▲18259 (J-4/VII下)	角,輝,砂粒	丁寧なナデ	-	混和材:角閃石
268	432	5. 2	▲10661 (I-4/VII) ▲13655 (I-4/VII) ▲13656 (I-4/VII)	角,輝,雲,砂粒	丁寧なナデ	-	黒耀石, 内面スス付着
268	433	5. 2	▲10145 (E-5/VII) ▲12874 (I-5/VII)	角,輝,雲,砂粒 ,赤粒	ミガキに近い丁寧なナデ	-	-
268	434	5. 2	▲19052 (I-8/XVII)	輝,雲,砂粒,赤粒	ミガキに近い丁寧なナデ	-	-
268	435	5. 2	▲10417 (I-7/VII)	輝,雲,砂粒,赤粒	ハケ→ナデ	_	底面:白色化
268 268	436	5. 2 5. 2	▲10388 (H-3/VII) ▲10523 (F-4/VII) ▲9311 (I-3/VII)	角,輝、雲、細粒	縦ハケ→ナデ	_	混和材:角閃石
268	438	5. 2	▲10733 (H-5/VII)	輝,雲,砂粒,赤粒	ディック ミガキに近い丁寧なナ デ	-	-
269	439	5. 2	▲3320 (G-18/VII)	輝,角,雲,砂粒	ミガキに近い丁寧なナ	口唇部:丁寧な	面取りによる平
269	440	5. 2	▲3321 (G-18/VII) ▲5323 (G-18/VIII)	, 赤粒 輝, 角, 雲, 砂粒 , 赤粒	<u>ア</u> ミガキに近い丁寧なナ デ	ナデ ロ唇部: 丁寧な ナデ	坦面形成 面取りによる平 坦面形成
269	441	5. 2	▲8966 (I-5/VII)	黒,輝,微粒	丁寧なナデ	-	混和材:黒雲母
269	442	5. 2	▲13920 (H-5/VII)	粒	縦ハケ→ナデ	-	-
269	443	5. 2	▲13832 (H-6/VII)	黒,輝,微粒	丁寧なナデ	-	混和材:黒雲母
269	444	5. 2	▲10628 (H-4/VII)	輝,雲,砂粒,赤 粒		_	
269	445	5. 2	▲12885 (J-5/VII)	角,輝,細粒	ハケーナデ	-	接合痕
270	446	5. 3	▲9108 (J-4/VII) ▲9109 (J-4/VII) ▲9110 (J-4/VII)	輝, 角, 雲, 微粒	縦ケズリ→横ハケナデ	ロ唇部:丁寧な ナデ	外面スス付着
270	447	5. 3	▲8306 (G-4/VII) ▲17058 (H-3/VII)	輝, 雲, 砂粒, 赤 粒	横ハケ→ナデ	ロ唇部:丁寧な ナデ	-
270	448	5. 3	▲9513 (G-3/VII)		横ハケ→ナデ	クリスタイプ ロ唇部:丁寧な ナデ	砂粒多量
270	449	5. 3	▲6158 (H-4/VI横転)	角,輝,砂粒	ミガキ	底面:ミガキに 近い丁寧なナデ	砂粒多量
270 271	450 451	5. 3 5. 4	▲8978 (I-5/VIa) ▲1158 (J-4/Ⅲb)	角,輝,砂粒	ハケ→ナデ 縦ケズリ→丁寧なナデ	横ハケ→ナデ 口唇部:ハケ	砂粒多量外面スス付着
			A 1911 (1-19/VII) A 1927 (1-19/VII) A 1932 (1-19/VIII) A 1932 (1-19/VIII) A 1940 (1-19/VIII) A 1944 (1-19/VIII) A 1954 (1-19/VIII) A 1954 (1-19/VIII) A 1957 (1-19/VIII) A 1973 (1-19/VIII) A 1973 (1-19/VIII) A 1973 (1-19/VIII) A 1974 (1-19/VIII) A 1976 (1-19/VIII) A 2005 (1-19/VIII) A 2014 (1-19/VIII) A 2015 (1-19/VIII) A 2015 (1-19/VIII) A 2015 (1-19/VIII) A 2016 (1-19/VIII) A 2117 (1-19/VI				
271		5. 4	▲10735 (H-5/VII)	角,輝,微粒	ミガキに近い丁寧なナデ	ロ唇部: 丁寧なナデ	混和材:角閃石 面取りによる 平坦面形成
271 271	453 454	5. 4 5. 4	▲13291 (H-5/VII) ○8296 (C-11/V下)	角,輝,雲,細粒輝,白粒,黒,	ハケ→ナデ 工具ナデ,	-	- 混和材:白色粒,
∠ /	404	J. 4	O10479 (C-11/V 下) O10479 (C-11/V 下) O11945 (-/V 上) O22246 (C-12/V 下) O48888 (B-14/V a)	碑, 日松, 黑, 細粒	エ共アテ. 指頭痕→丁寧なナデ		浜和州・日巴和・ 外面スス付着
272	455	5. 5	●2421(さ-30/VII) ●6768(さ-29/VII) ●50333(さ-29/VII) ●50334(さ-29/VII)	黒,輝,細粒	ナデ	ハケナデ	_
273	456	5. 5	▲19500 (-/-)	輝,雲,砂粒	斜ケズリ→粗いナデ	横ハケ →丁寧なナデ	砂粒多量
273	457	5. 5	▲10706 (H-5/VII)	輝,雲,砂粒	縦ハケ→ナデ	横ハケ→ナデ	砂粒多量
273	458	5. 5	▲2021 (I-19/WII)	角,輝,砂粒, 赤粒	縦ケズリ→粗いナデ	横ハケ→ナデ -	砂粒多量
	459	5. 5 5. 5	▲10005 (I-6/VII) ▲19419 (-/-)	黒,輝,雲,細粒 角,輝,砂粒	横ハケ→ナデ 指頭痕→斜ハケナデ	- 横ハケ→ナデ	砂粒多量
273	460				LINESCUS WITE 1////	1051 1 / / /	レベルン里
273 273 273	460 461	5. 5	▲8443 (G-4/VII)	輝,雲,微粒	縦ケズリ→粗いナデ	斜ヘラナデ	胎土精選

図・第274図~第278図参照)。

ここで注目できるのは次の3点である。

第1には、山形押型文を施文する第1種土器が耳取調査区 南側地区を、楕円押型文を施文する第2種土器が耳取調査区 北側地区を主たる分布域にしていることが挙げられる。

第2には、耳取調査区南側地区を主たる分布域にしている 第6群土器は、第6群土器第1類土器第1タイプ土器第1種 土器のみであることが挙げられる。

第3には、耳取調査区北側地区を分布域にしている第6群 土器は、第6群土器第1類土器第1タイプ土器第1種土器以 外は全てであることが挙げられる。

以上のことから、本タイプ土器群のうち第1種土器と第2種土器との間に時間差がある可能性を含めて、今後注意を要する土器群である。

第6群土器第1類土器第2タイプ土器(分類記号6.12, 第288図~第291図503~532, 第294・295図538~548)

器形的特徴としては、口縁形態は平口縁で、口縁部は外反 し、胴部中央部は若干膨らみ、胴部下半部では緩やかにすぼ まり、底部は平底になることが指摘できる。

この全体的特徴は、第3,4,5タイプ土器に共通する。

口縁部形態には4種類ある。第1は、長めの口縁部が緩やかに外反する土器(第288図503,504)である。第2は、短めの口縁部が緩やかに外反する土器(第294図538~541)である。第3は、短めの口縁部が急激に外反する土器(第289図505)である。第4は、長めの口縁部が急激に外反する土器(第290図509,512)である。この口縁部形態の差が形式差になるのかは不明である。

施文的特徴としては、口唇部文様帯には横位方向の押型文を施すことが指摘できる。口縁部文様帯から胴部文様帯にかけて外面全面に縦位方向の押型文を施すのが、本タイプ土器分類の最大の指標である。また、口縁部内面には横位方向の押型文を1条から数条巡らす土器が主体を占めている。ただし本タイプ土器に帰属する土器のなかには、口縁部内面に棒状工具による刺突文を1列から2列横位方向に巡らす土器(第294図538、540,541)が観られる。また本タイプ土器には、楕円押型文を施す第1種土器(分類記号6.121,第288図~第291図503~532)と、山形押型文を施す第2種土器(分類記号6.122,第294・295図538~548)との2種類の土器がある。

調整方法や本タイプ土器の胎土中鉱物についての状況は、他の第6群土器第1類土器とほぼ同様である。

さて、出土分布図からは次の2点が注目できる。

第 1 には、本タイプ土器は主に、耳取調査区北側地点のうち、特に耳取調査区 F ~ K-3 ~ 6 区周辺に集中していることである(第280図・第274図~第278図参照)。

第2には、桐木調査区西側地区さ~い-19~32区の範囲内と桐木調査区南側地区C~E-24・25区の範囲内とでは部分的に出土していることを指摘できる。

第6群土器第1類土器第3タイプ土器(分類記号6.13,第

292 - 293図533~537. 第296図549~556)

器形的特徴としては、第2タイプ土器と共通することが指摘できる。口縁部形態には、短めの口縁部が緩やかに外反する土器(第296図549)と、短めの口縁部が急激に外反する土器(第292図533)とがある。

施文的特徴としては、口唇部文様帯には横位方向の押型文を施すことが指摘できる。口縁部文様帯から胴部文様帯の上半部にかけて外面には縦位方向の押型文を施し、胴部文様帯の下半部から底部にかけては横位方向の押型文を施すのが、本タイプ土器分類の最大の指標である。さらに口縁部内面には、横位方向の押型文を1条から数条巡らす土器である。また本タイプ土器には楕円押型文を施す第1種土器と、山形押型文を施す第2種土器とがある。

ここで注意を要するのは、次の2点である。

第1は、口縁部文様帯から胴部文様帯の上半部にかけての 器形的特徴ならびに施文的特徴は、第6群土器第1類土器第 2タイプ土器と共通することである。したがってこの部位だ けでは、第2タイプ土器に帰属する土器であるのか、第3タ イプ土器に帰属する土器であるのか、現在のところ判別は困 難である。

第2は、口縁部文様帯から胴部文様帯の下半部にかけての 器形的特徴ならびに施文的特徴は、第6群土器第1類土器第 4タイプ土器と共通することである。したがってこの部位だ けでは、第2タイプ土器に帰属する土器であるのか、第4タ イプ土器に帰属する土器であるのか、現在のところ判別は困 難である

調整方法や本タイプ土器の胎土中鉱物についての状況は、 他の第6群土器第1類土器とほぼ同様である。

さて、出土分布図から本タイプに属する土器は主に、耳取調査区北側地点のうち、特に耳取調査区E~K-3~6区周辺に集中していることと、第1種土器が桐木調査区西側地区のさ-31区周辺で出土していることを指摘できる(第281図・第274図~第278図参照)。

第6群土器第1類土器第4タイプ土器(分類記号6.14, 第297・298図557~560)

器形的特徴としては、第2タイプ土器と共通することが指摘できる。口縁部形態は、短めの口縁部が緩やかに外反する土器である。

施文的特徴としては、口唇部文様帯には横位方向の押型文を施すことが指摘できる。口縁部文様帯から胴部文様帯の上半部にかけて外面には斜位方向の押型文を施し、胴部文様帯の下半部から下端部では横位方向の押型文を施すのが、本タイプ土器分類の最大の指標である。さらに口縁部内面に横位方向の押型文を1条から数条巡らす土器である。また本タイプ土器には楕円押型文を施す第1種土器が出土した。

調整方法や本タイプ土器の胎土中鉱物についての状況は、他の第6群土器第1類土器とほぼ同様である。

さて、出土分布図から本タイプに属する土器は主に、耳 取調査区北側地区のうち、特に耳取調査区H-6区周辺に集 中している状況と、G~J-3~6区の範囲内で部分的に出土している状況を指摘できる(第299図・第274図~第278図参照)。

第6群土器第1類土器第5タイプ土器(分類記号6.15, 第302・303図561~576)

器形的特徴としては、第2タイプ土器と共通することが指摘できる。口縁部形態は、短めの口縁部が急激に外反する土器である。

施文的特徴としては、口唇部文様帯には横位方向の押型文を施すことが指摘できる。口縁部文様帯から胴部文様帯全面にかけて外面には斜位方向の押型文を施すのが、本タイプ土器分類の最大の指標である。さらに口縁部内面に横位方向の押型文を1条から数条巡らす土器である。また本タイプ土器には山形押型文を施す第2種土器のみが出土した。

調整方法や本タイプ土器の胎土中鉱物についての状況は、他の第6群土器第1類土器とほぼ同様である。ここで注目できるのは、第6群土器第1類土器のなかで本タイプ土器には、黒曜石を含む土器が多い傾向が認められることである。

さて、出土分布図からは次の2点が注目できる。

第1には、本タイプに属する土器は主に、耳取調査区北側地区のうち、特に耳取調査区G~J-3~6区周辺に集中していることである(第300図・第274図~第278図参照)。

第2には、桐木調査区北側地区B-11区の範囲内と、桐木 調査区西側地区さ-31~33区の範囲内とでは部分的に出土し ていることを指摘できる。

第6群土器第1類土器第6タイプ土器(分類記号6.16, 第304図~第308図577~624)

器形的特徴としては、第2タイプ土器と概ね共通することが指摘できる。口縁形態では平口縁を呈する土器が主体を占めたが、緩やかな波状口縁を呈する土器(第304図577)もみられた。

また口縁部形態には概ね3種類の土器が認められた。第1は、長めの口縁部が緩やかに外反する土器(第304図577)である。第2は、短めの口縁部が緩やかに外反する土器(第304図580~584、第306図607、第308図618,619,621)である。第3は、短めの口縁部が急激に外反する土器(第304図578)である。この口縁部形態の差が、形式差になるのかは不明である。

施文的特徴としては、口唇部文様帯には横位方向の押型文を施すことが指摘できる。口縁部文様帯から胴部文様帯の上半部にかけて外面には斜位方向の押型文を施した後に、横走する鋸歯文に見かけ上みえるようナデ消すのが、本タイプ土器細別の最大の指標である。また胴部文様帯の下半部から底部にかけては横位方向の押型文を施す。さらに口縁部内面に横位方向の押型文を1条から数条巡らす土器である。また本タイプ土器には楕円押型文を施す第1種土器(分類記号6.161,第304図~第306図577~609)と、山形押型文を施す第2種土器(分類記号6.162,第307・308図610~624)とがある。

ここで注目できるのは、次の2点である。

第1には、口縁部内面に施文される押型文の圧力が強いために、口縁部と胴部との間が屈曲する第6群土器第2類土器の形態に酷似することである。ただし、本タイプ土器では口縁部内面文様帯直下の最終調整が丁寧なナデ調整である。これに対して第2類土器では、口縁部内面文様帯直下の最終調整は粗いナデ調整であるか、直前調整であるケズリ調整の痕跡が観察できる調整である。この違いから分類を行った。

第2には、口縁部文様帯から胴部文様帯の上半部にかけて 外面に、まず斜位方向の押型文を施す特徴は、その文様構成 上から、第6群土器第1類土器第4タイプ土器との近縁性が 考えられる。しかし、第4タイプ土器には山形押型文を施す 土器が認められておらず、注意を要する。

調整方法や本タイプ土器の胎土中鉱物についての状況は、 他の第6群土器第1類土器とほぼ同様である。

さて、出土分布図からは次の2点が注目できる。

第1には、本タイプに属する土器は、耳取調査区北側地区 のうち、特に耳取調査区 E~J-3~6区周辺に集中してい ることである(第301図・第274図~第278図参照)。

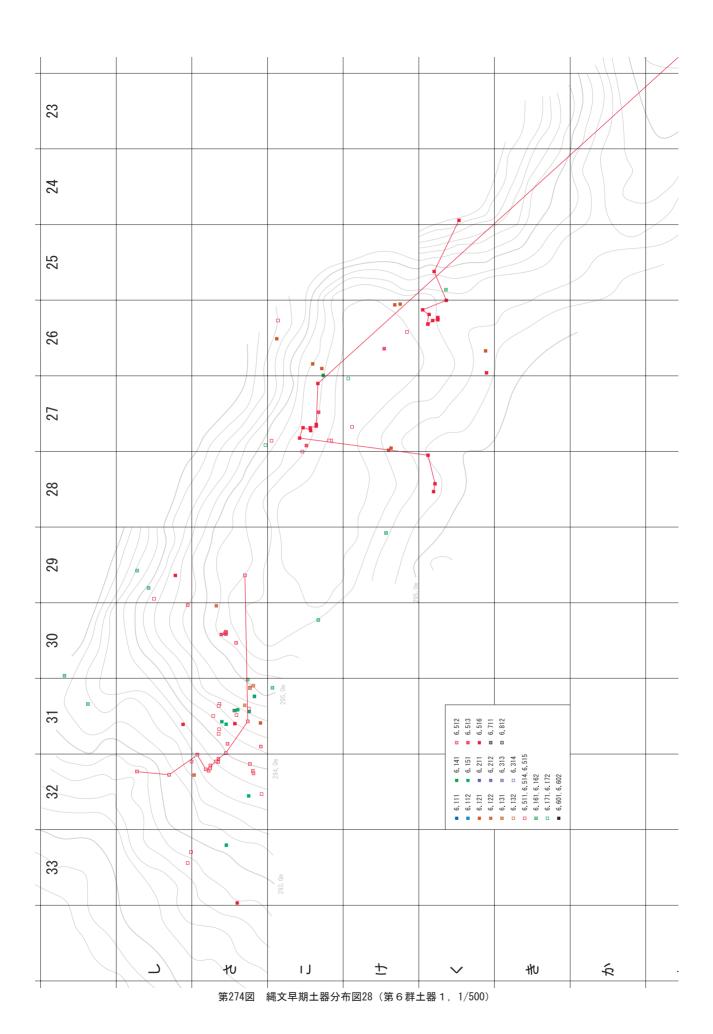
第2には、桐木調査区北側地区B~E-8~11区の範囲内と、桐木調査区西側地区す~く-25~31区の範囲内とでは部分的に出土していることを指摘できる。

ここで注目できるのは、耳取調査区北側地区に集中して出土する分布域があり、桐木調査区北側地区や西側地区に広い範囲内で部分的に出土する地点があるという特徴は、第6群土器第1類土器のなかでは、外面全面に横位方向の押型文を施す第1タイプ土器と、外面に斜位方向と横位方向の押型文を施す第4タイプ土器を除く土器群に共通する特徴である。

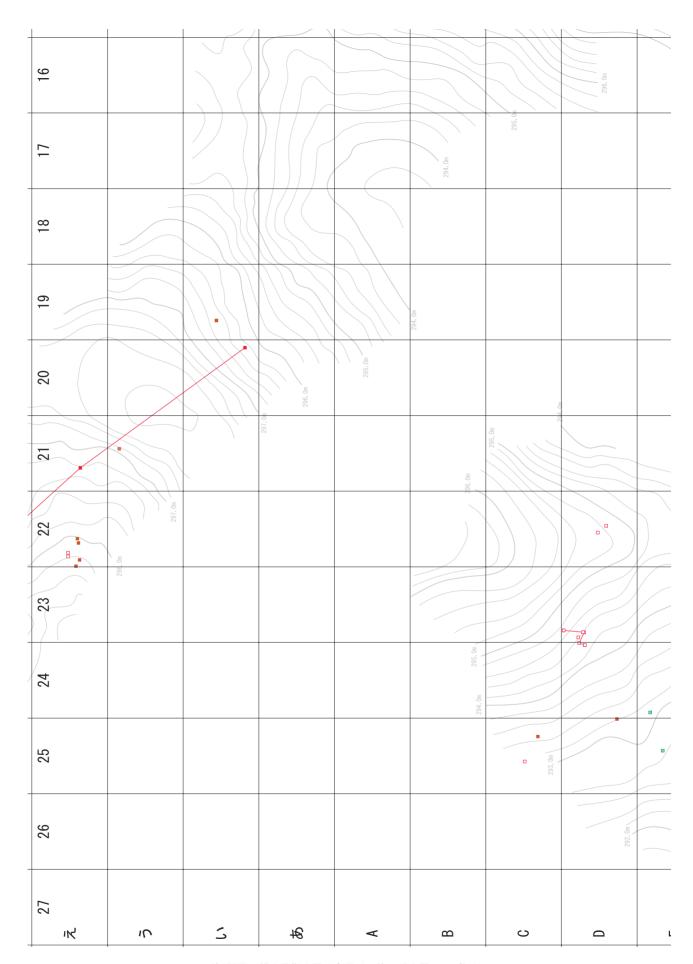
第6群土器第1類土器第7タイプ土器(分類記号6.17, 第318図~第320図682~692)

本タイプ土器は、口縁部文様帯外面が無文帯となる土器群である。器形的特徴としては口縁部が外反し、胴部中央部で若干膨らみ、施文的特徴としては口唇部文様帯には横位方向の押型文を施し、口縁部内面に横位方向の押型文を1条から数条巡らすという特徴を挙げることができる。第319図687を基本的形態とする。また本タイプ土器には楕円押型文を施す第1種土器(分類記号6.171,第318図~第320図682~688,690,692)と、山形押型文を施す第2種土器(分類記号6.172,第320図689~691)とがある。

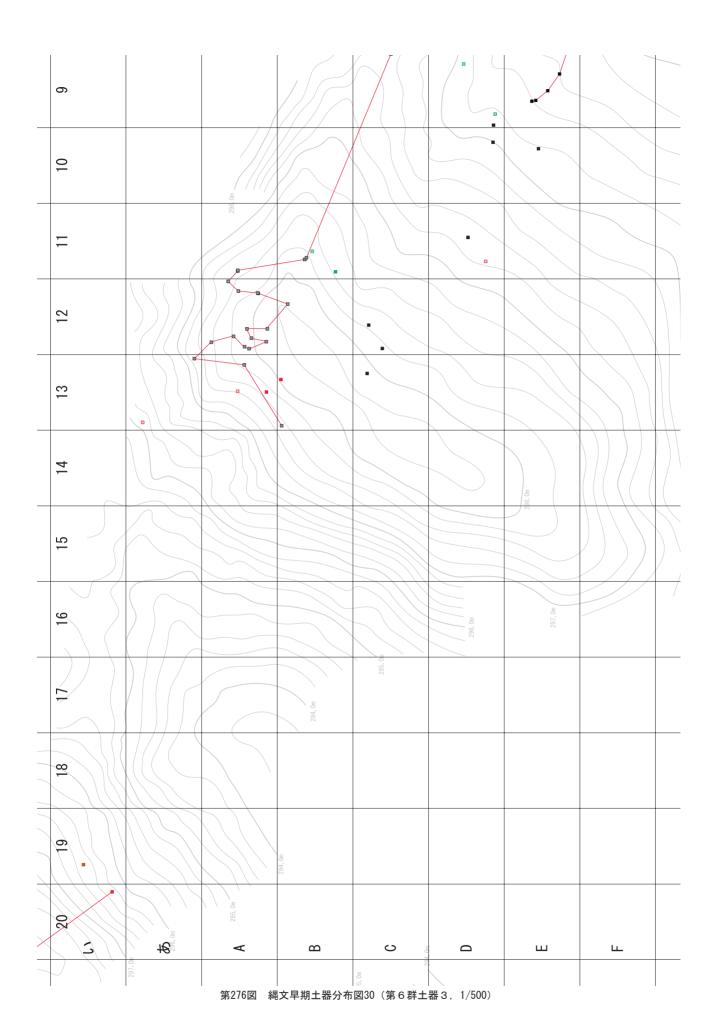
しかし本タイプ土器の分類指標には、次の2点について問題がある。第1には、器形的特徴として第2類土器に属する口縁部形態を呈する土器群(第320図688~692)や、第3類土器に属する口縁部形態を呈する土器群(第318図682~686)を含むことである。第2には、施文的特徴として胴部文様帯に縦位方向に施文する土器群(第319図687,第320図688,692)や横位方向に施文する土器群(第320図689,691)がみられることである。このように分類上に「ぶれ」がある土器群である。したがって今後注意を要する土器群である。



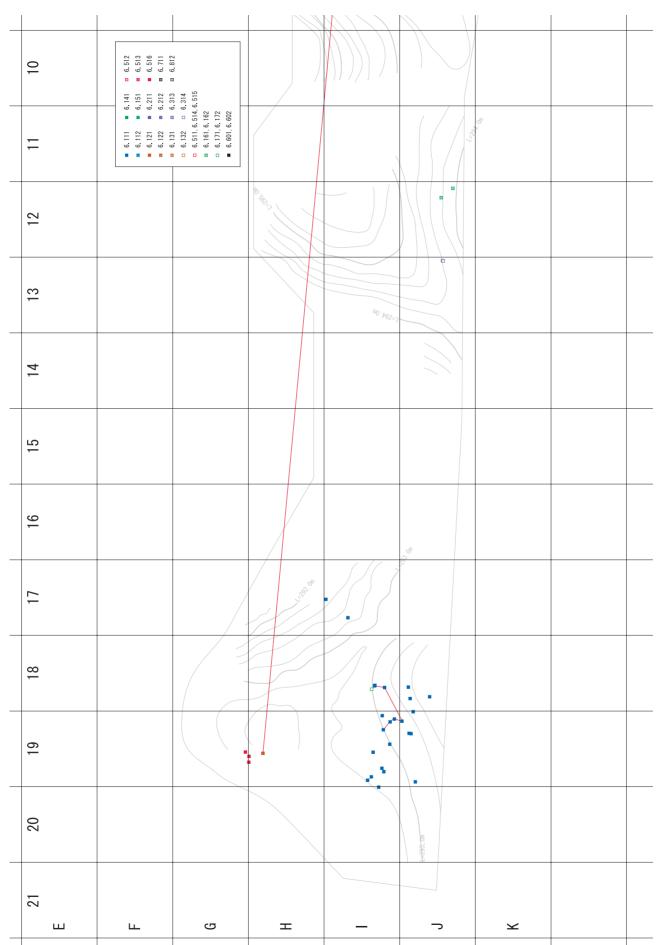
- 266 -



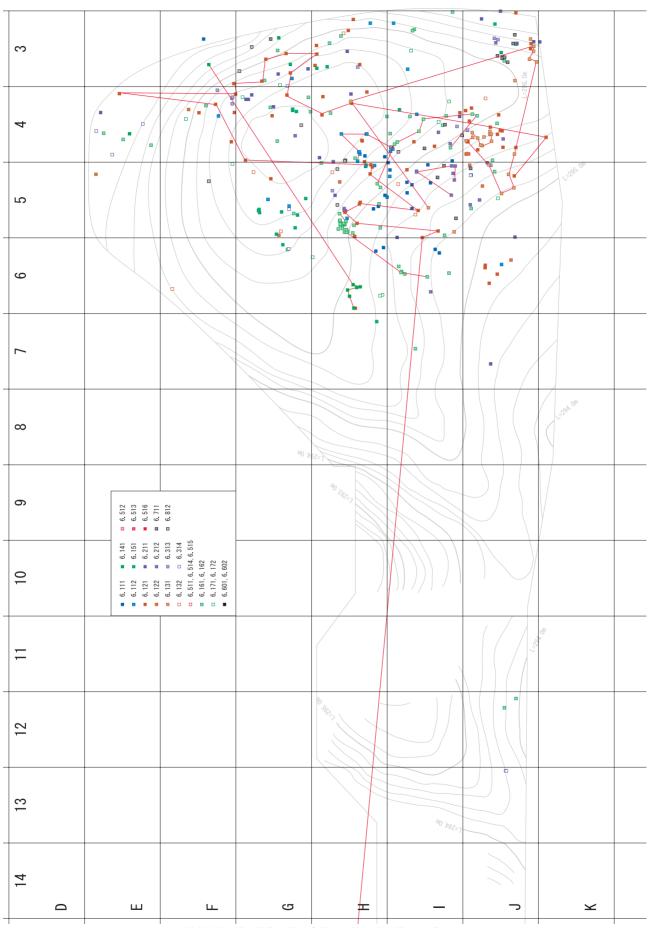
第275図 縄文早期土器分布図29 (第6群土器2, 1/500)



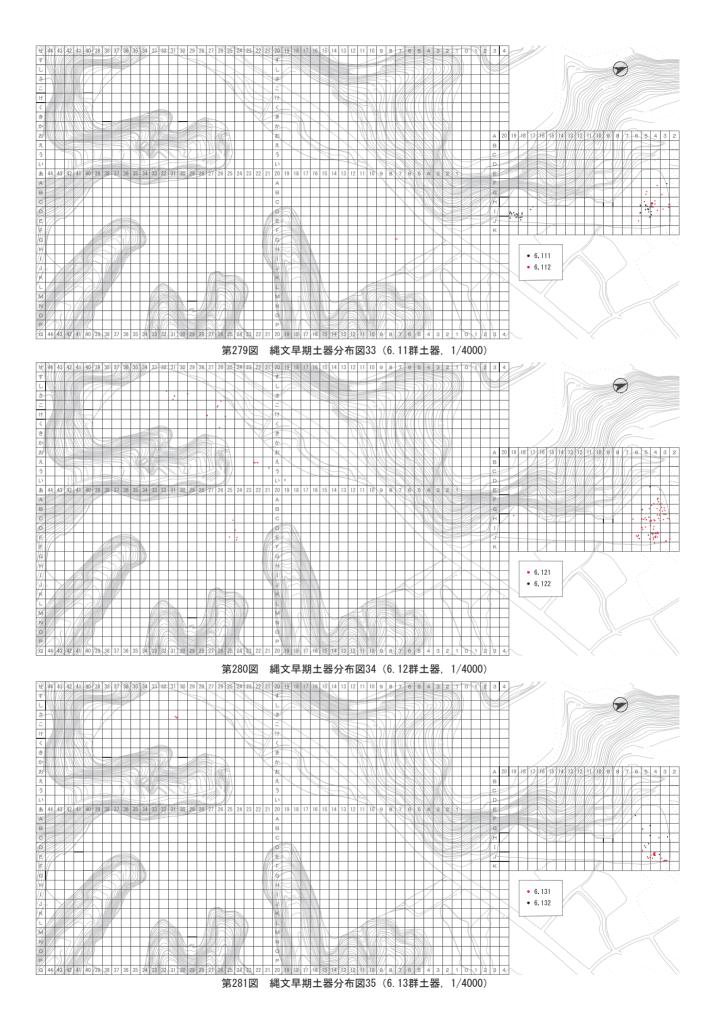
- 268 -

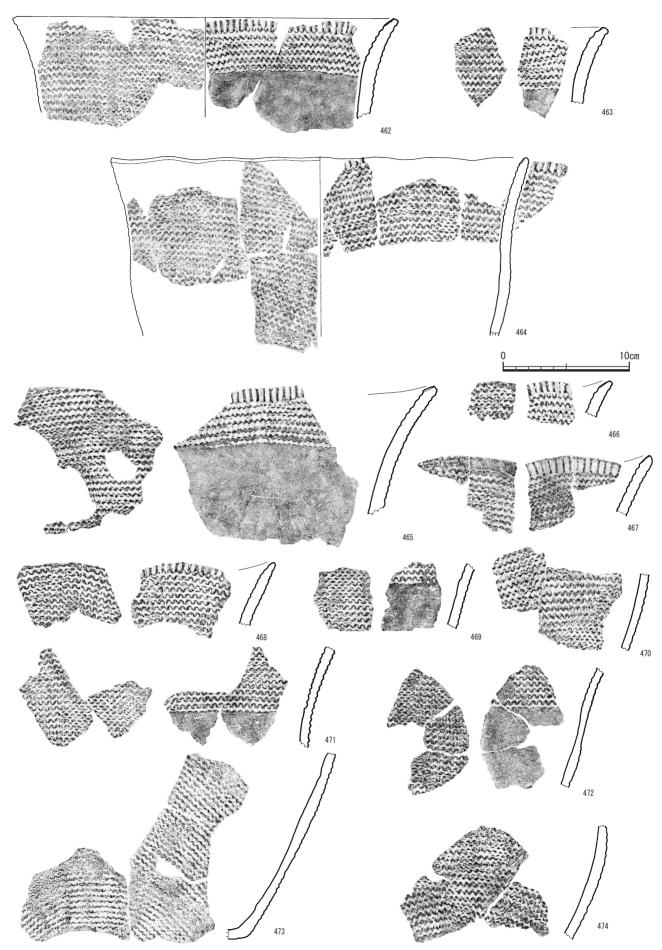


第277図 縄文早期土器分布図31 (第6群土器4, 1/500)

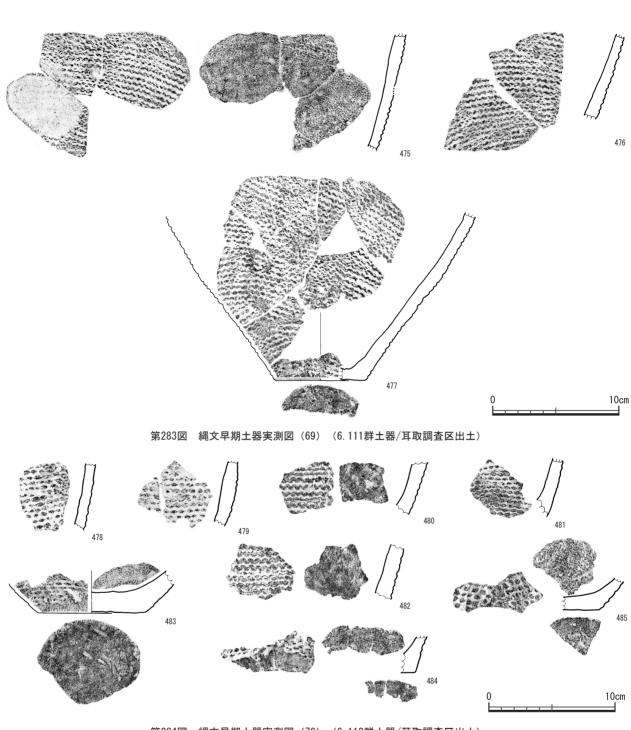


第278図 縄文早期土器分布図32 (第6群土器5, 1/500)

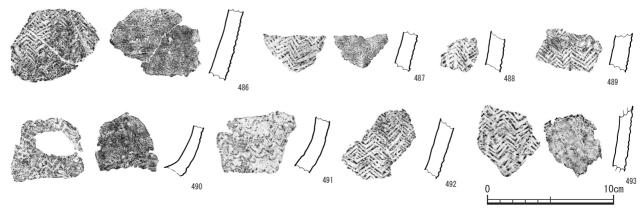




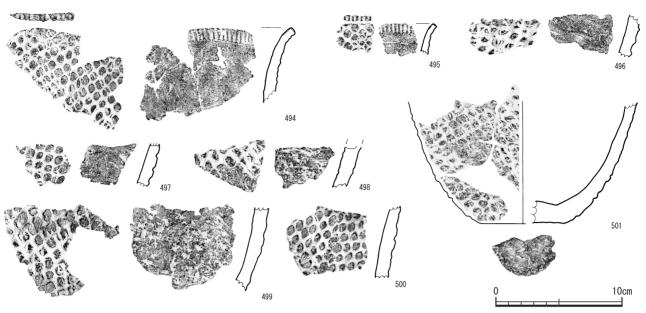
第282図 縄文早期土器実測図 (68) (6.111群土器/耳取調査区出土)



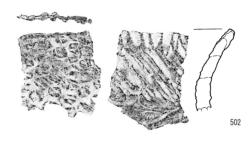
第284図 縄文早期土器実測図 (70) (6.112群土器/耳取調査区出土)



第285図 縄文早期土器実測図 (71) (6.111群土器/耳取調査区出土)



第286図 縄文早期土器実測図 (72) (6.112群土器/耳取調査区出土)





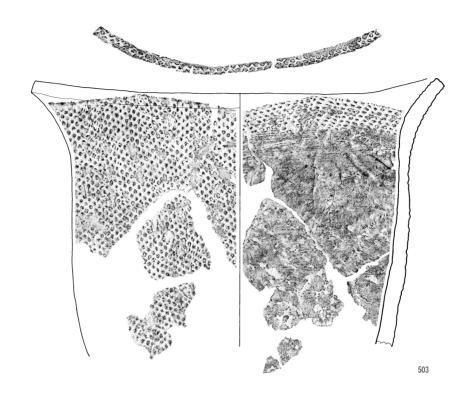
第287図 縄文早期土器実測図 (73) (6.112群土器/桐木調査区出土)

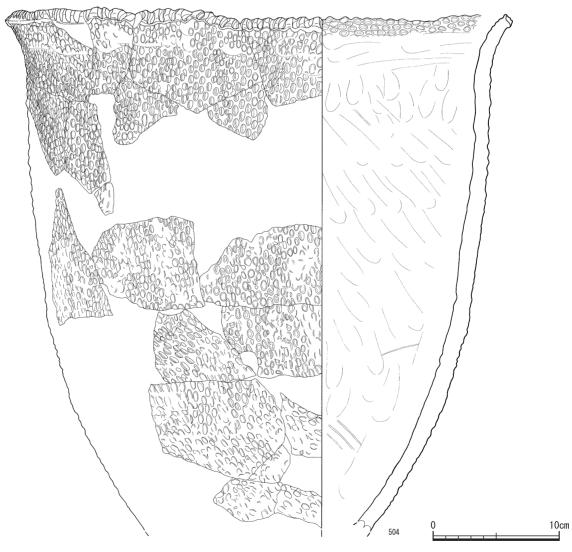
第75表 縄文早期土器観察表(33)(6群土器-1)

弗/	0衣	7年.	义 早期工	奈衣 ()	3) (0群工器-	1)	
挿図 No	図 No	分類 記号	取上No (グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
282	462	6. 111	▲1865 (I-20/VII) ▲2143 (I-19/VII)	角,輝,砂粒	斜ヘラナデ→ナデ	口唇部:ハケナデ	混和材:角閃石
282	463	6. 111	▲1900 (I-19/VII)	角,輝,砂粒	斜ヘラナデ→ナデ	口唇部:ハケナデ	混和材:角閃石
282		6. 111	▲2134 (I-19/WII) ▲2421 (I-18/WII) ▲2431 (I-18/WII) ▲2461 (I-19/WII) ▲2464 (I-18/WII下) ▲11159 (J-19/WII下) ▲11215 (I-19/WII下)		斜ハケ→ナデ	_	_
282		6. 111	▲10468 (I-6/Ⅷ)		横ケズリ→ハケナデ	口唇部:ハケナデ	混和材:角閃石
282	466	6. 111	▲1908 (I-19/VII)	角,輝,雲,砂粒	-	-	-
282	467	6. 111	▲12607 (H-5/X II) ▲19425 (-/-)	角,輝,砂粒	-	-	-
282	468	6. 111	▲4495 (I-17/Ⅷ) ▲4543 (I-17/Ⅺ)	角,輝,砂粒	-	-	-
282	469	6. 111	▲11163 (J-19/VII)	角,輝,砂粒, 赤粒	横ハケ→ナデ	-	-
282	470	6. 111	▲1868 (I-19/VII) ▲1918 (I-19/VII)	角,輝,砂粒, 赤粒	ミガキに近い丁寧なナデ	-	混和材:角閃石
282	471	6. 111	▲11153 (J-19/VII) ▲11154 (J-19/VII)	角,輝,砂粒	横ハケ→ナデ	-	混和材:角閃石
282	472	6. 111	▲11140 (J-18/VII) ▲11174 (J-18/VII) ▲11179 (J-18/VII)	角,輝,雲,微粒	横ハケ→ナデ	_	混和材: 角閃石
282	473	6. 111	▲10324 (I-5/VII) ▲10632 (H-4/VII) ▲10678 (I-5/VII)	角,輝,砂粒	斜, 横ケズリ→ハケナデ	_	混和材:角閃石
282	474	6. 111	▲1866 (I-19/VII) ▲1899 (I-19/VII) ▲11081 (J-19/VIII)	角,輝,雲,砂粒	斜, 横ケズリ→ハケナデ	_	混和材:角閃石, 黒耀石
283	475	6. 111	▲10255 (1-5/VII) ▲10654 (1-4/VII) ▲19402 (-/-)	角,輝,雲,砂粒	横ハケ→ナデ	_	混和材:角閃石
283	476	6. 111	▲8982 (I-5/VII) ▲10276 (I-5/VII)	角,輝,雲,砂粒	横ハケ→ナデ	-	混和材:角閃石
283	477	6. 111	▲10210(I-5/VII) ▲10253(I-5/VII) ▲12786(H-4/VIII) ▲19400(-/-) ▲19405(-/-) ▲19405(-/-) ▲19412(-/-)	角, 輝, 雲, 砂粒	斜、横ハケ→ナデ	-	混和材:角閃石
284		6. 112	▲10524 (F-4/VII)	角,輝,雲,砂粒	ハケ→ナデ	-	砂粒多量
284	479	6. 112	▲8264 (G-3/VII)	角,輝,雲,砂粒	ハケ→ナデ	-	砂粒多量

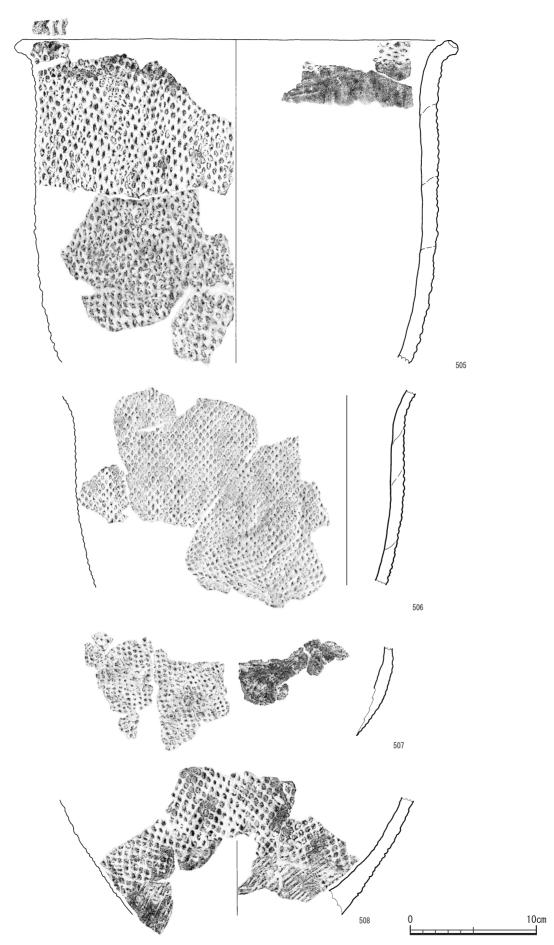
第76表 縄文早期土器観察表 (34) (6群土器-2)

146 FM	I m	1 () ter	1	1	ı	1	1
挿図 No	図 No	分類 記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
284	480	6. 112	▲9972 (H-3/VII)	角,輝,雲,細粒	横ハケ→ナデ	-	-
284	481	6. 112	▲8117 (I-3/VII)	黒,輝,砂粒	横ハケ→ナデ	-	砂粒多量
284	482	6. 112	▲8946 (I-4/VIII)	角,輝,雲,細粒	横ハケ→ナデ	-	-
284	483	6. 112	▲9339 (1-3/VII)	角,輝,雲,砂粒	ハケ→ナデ	底面:ハケ→ナ デ	砂粒多量
284	484	6. 112	▲10787 (H-5/VII)	角,輝,砂粒	横ハケ→ナデ	-	-
284	485	6. 112	▲17594 (J-6/Ⅷ)	角,輝,雲,細粒	横ハケ→ナデ	-	-
285	486	6. 111	▲776 (I-6/Ⅲb) ▲13676 (H-6/Ⅶ)	黒,輝,砂粒	横ハケ→ナデ	-	混和材:黒雲母, 砂粒多量, 繊維痕
285	487	6. 111	▲13249 (H-5/VII)	黒,輝,砂粒	横ハケ→ナデ	-	混和材:黒雲母, 砂粒多量, 接合痕
285	488	6. 111	▲15938 (I-5/VII)	黒,輝,砂粒	横ハケ→ナデ	-	砂粒多量
285	489	6. 111	▲10797 (H-5/VII)	黒,輝,砂粒	横ハケ→ナデ	-	混和材:黒雲母, 砂粒多量, 接合痕
285	490	6. 111	▲10305 (J-5/VII)	角,輝,砂粒	横ハケ→ナデ	-	混和材:角閃石
285	491	6. 111	▲12844 (F-3/VII)	角,輝,砂粒	横ハケ→ナデ	-	黒耀石
285	492	6. 111	▲19446 (-/-)	黒,輝,砂粒	横ハケ→丁寧なナデ	-	混和材:黒雲母, 砂粒多量
285	493	6. 111	▲12743 (H-6/VII)	黒,輝,砂粒	横ハケ→ナデ	-	混和材:黒雲母, 砂粒多量
286	494	6. 112	▲10250 (I-5/VII) ▲15987 (H-5/VII)	輝,角,砂粒, 赤粒	横ハケ→ナデ	-	砂粒多量
286	495	6. 112	▲10236 (H-5/VII)	輝,角,細粒	斜ハケ→ナデ	-	-
286	496	6. 112	▲9772 (H-5/VII上)	輝,角,砂粒, 赤粒	横ハケ→ナデ	-	-
286	497	6. 112	▲12789 (H-4/VIII)	輝,角,砂粒, 赤粒	横ハケ→ナデ	-	-
286	498	6. 112	▲13074 (G-5/VII)	黒,輝,細粒	横ハケ→粗いナデ	-	混和材:黒雲母, 細粒多量
286	499	6. 112	▲8684 (G-5/VIII)	黒,輝,細粒	横ハケ→粗いナデ	-	混和材:黑雲母, 細粒多量
286	500	6. 112	▲8960 (I-4/WI下)	輝,角,砂粒	横ハケ→ナデ	-	-
286	501	6. 112	▲6143 (H-4/VⅢ横率后) ▲6275 (H-4/VⅢ横率后) ▲9779 (H-4/VⅡ上) ▲9784 (H-4/VⅢ) ▲10638 (1-4/VⅢ) ▲12829 (H-4/VⅢ)	輝,角,砂粒, 赤粒	横ハケ→ナデ	底面:白色化	-
287	502	6. 112	○60926 (G-7/VIII) ○65824 (G-8/VIII)	輝,砂粒	縦原体条痕, 斜原体条痕, ケズリ→ナデ	口唇部:ナデ	外面スス付着

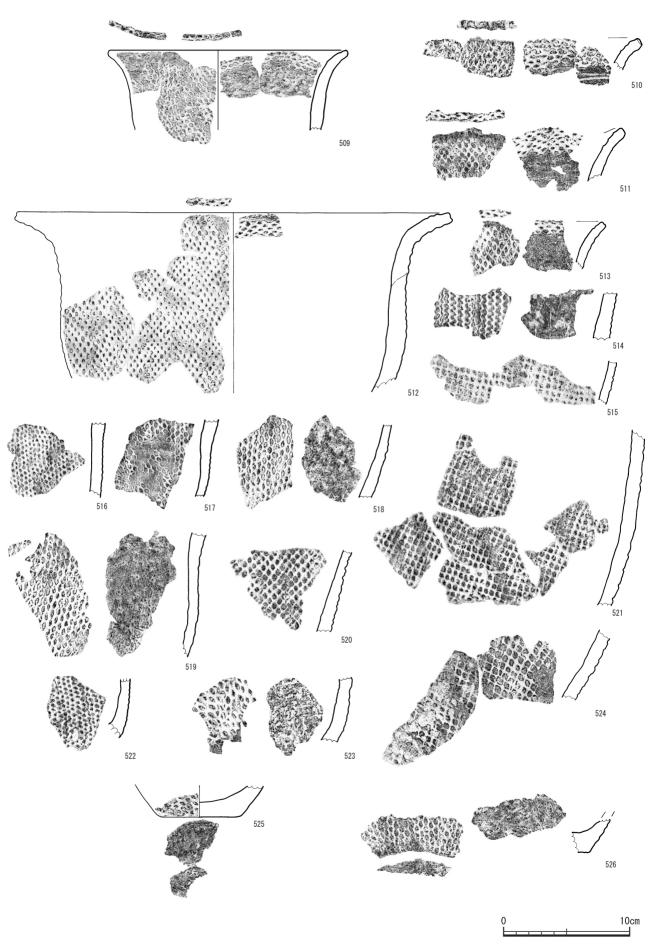




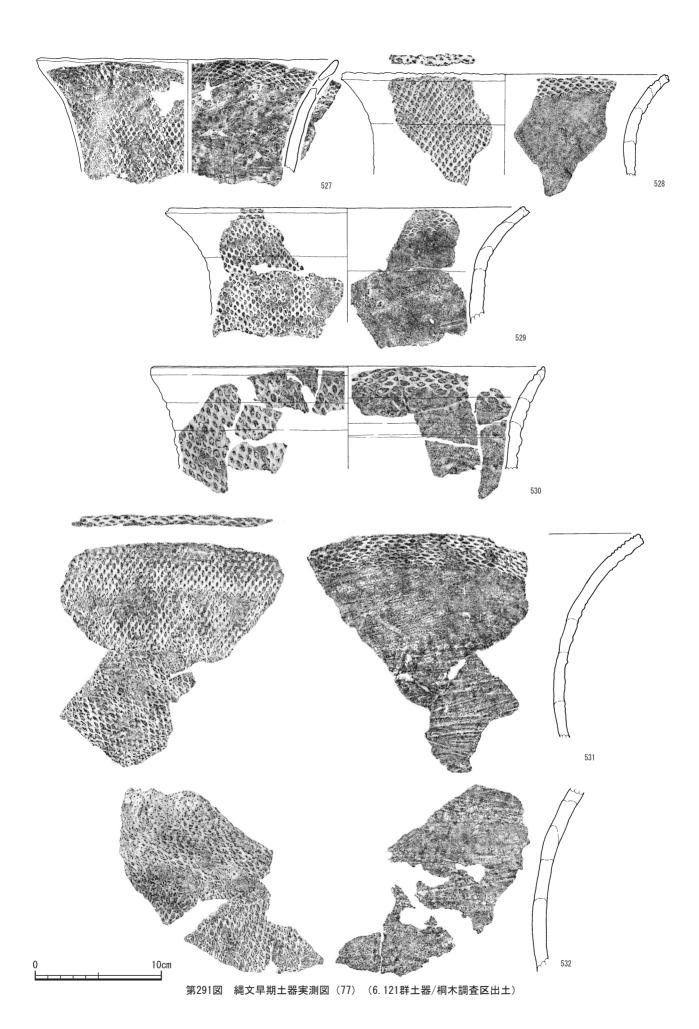
第288図 縄文早期土器実測図 (74) (6.121群土器/耳取調査区出土)



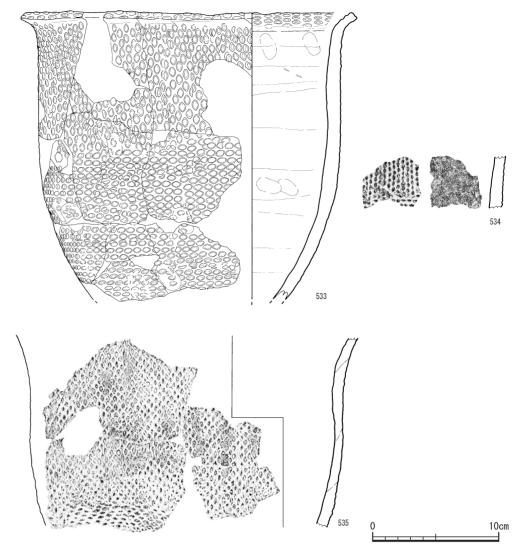
第289図 縄文早期土器実測図 (75) (6.121群土器/耳取調査区出土)



第290図 縄文早期土器実測図 (76) (6.121群土器/耳取調査区出土)



- 278 -



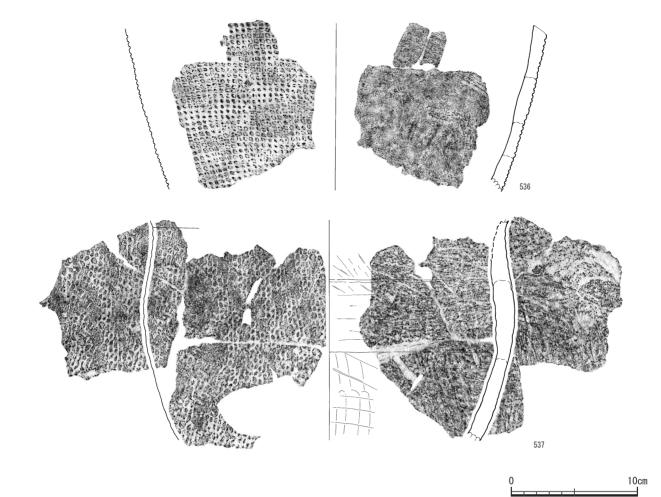
第292図 縄文早期土器実測図 (78) (6.131群土器/耳取調査区出土)

第77表 縄文早期土器観察表(35)(6群土器-3)

挿図 No	図 No	分類 記号	取上No (グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
288	503	6. 121	1945(-(-/-) 1945(-(-/-) 1945(-(-/-) 19458(-(-/-) 19458(-(-/-) 19469(-(-/-) 19469(-(-/-) 19463(-(-/-) 19463(-(-/-) 19465(-(-/-) 19465(-(-/-) 19465(-(-/-) 19468(-(-/-) 19468(-(-/-) 19468(-(-/-) 19468(-(-/-) 19469(-(-/-) 19470(-(-/-)	黒角,輝砂粒,赤粒	斜、横ケズリ→粗いナデ		黒耀石,鉄石英
288	504	6. 121	A 914 (J-5/IIIb) A 1201 (K-4/IIIb) A 8277 (G-4/VID) A 8877 (G-4/VID) A 8887 (G-4/VID) A 8888 (G-4/VID) A 9889 (H-4/VID) A 9515 (G-3/VID) A 1071 (H-5/VID) A 10717 (H-5/VID) A 10710 (H-5/VID) A 10717 (H-5/VID) A 10718 (H-6/VID) A 1071	角, 輝、雲、細粒	横. 斜ハケナデ → 丁 章なナデ		胎土精選

第78表 縄文早期土器観察表 (36) (6群土器-4)

挿図 No	図 No	分類 記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
289	505	6. 121	▲9936 (H-3/VII 上) ▲9950 (H-3/VII) ▲10600 (H-4/VII) ▲10679 (I-5/VII) ▲10794 (H-5/VII) ▲19480 (-/-) ▲19481 (-/-)	輝, 角, 雲, 細粒	ケズリ→丁寧なナデ	-	-
289	506	6. 121	▲9258 (J-3/VII) ▲19474 (-/-) ▲19475 (-/-) ▲19477 (-/-) ▲19478 (-/-)	角,輝,雲,砂粒 ,赤粒	ミガキに近い丁寧なナデ	-	混和材:角閃石
289	507	6. 121	▲19483 (-/-)	角,輝,砂粒,赤 粒	ミガキに近い丁寧なナ デ	-	-
289	508	6. 121	▲8250 (H-3/VIII) ▲10260 (I-4/VII) ▲10598 (H-4/VII) ▲13645 (I-4/VII)	輝,角,雲,細粒	丁寧なナデ	-	内面スス付着
290	509	6. 121	▲10278 (J-4/VII) ▲10291 (J-4/VII) ▲10335 (J-4/VII)	輝,雲,砂粒	斜ケズリ→粗いナデ	-	砂粒多量
290	510	6. 121	▲9344 (H-3/VII) ▲9969 (H-3/VII)	角,輝,雲,細粒 ,赤粒	-	-	-
290	511	6. 121	▲17816 (J-4/VIa)	輝,角,砂粒	ハケ→丁寧なナデ	-	-
290	512	6. 121	▲10283 (J-4/-) ▲10285 (J-4/VII) ▲17819 (J-4/VII) ▲17830 (J-4/VII 上) ▲17834 (J-4/VII) ▲17998 (J-4/VIII)	,赤粒	ロ縁: 丁寧なナデ, 胴部上 半: 縦ケズリ→粗いナデ, 胴部下半: 縦ケズリ→丁 寧なナデ	-	砂粒多量
290	513	6. 121	▲17812 (J-4/VII上)	輝,雲,細粒, 赤粒	ハケ→ナデ	-	-
290	514	6. 121	▲9139 (J-4/VII)	輝,雲,微粒	丁寧なナデ	-	胎土精選
290	515	6. 121	▲9200 (J-6/VIII)	角,輝,砂粒	ミガキに近い丁寧なナデ	-	混和材:角閃石
290	516	6. 121	▲10583 (G-4/VII)	角,輝,細粒	ハケ→ナデ	-	-
290	517	6. 121	▲13635 (I-4/VII)	角,輝,細粒	胴部上半:斜ケズリ →粗いナデ,胴部下半: 斜ケズリ→丁寧なナデ	-	-



第293図 縄文早期土器実測図 (79) (6.131群土器/桐木調査区出土)

第79表 縄文早期土器観察表(37)(6群土器-5)

挿図 No	図 No	分類 記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
	518	6. 121	▲8613 (G-5/VII)	黒,輝,砂粒	縦ケズリ→粗いナデ	-	混和材:黒雲母 砂粒多量
290	519	6. 121	▲9898 (F-4/VII) ▲9908 (F-4/VII上)	黒,輝,砂粒	縦,斜ケズリ→ハケナデ	-	混和材: 黒雲母 砂粒多量
290	520	6. 121	▲9209 (J-6/VII)	角,輝,砂粒	ミガキに近い丁寧なナデ	-	混和材:角閃石 砂粒多量
290	521	6. 121	▲9201 (J-6/VIII) ▲9204 (J-6/VIII)	角,輝,雲,砂粒	横ケズリ→斜工具ナデ	-	-
290	522	6. 121	▲6273 (H-4/Ⅷ横転) ▲6551 (H-4/Ⅷ横転)	黒,輝,雲,微粒	横ハケ→粗いナデ	-	黒耀石
290	523	6. 121	▲12653 (H-6/VII)	黒,輝,砂粒	縦ケズリ→粗いナデ	-	混和材:黒雲母 砂粒多量
290	524	6. 121	▲9775 (H-4/VII上) ▲9785 (H-4/VII)	輝,角,雲,細粒	丁寧なナデ	-	内面スス付着
290	525	6. 121	▲9249 (J-3/VII) ▲9250 (J-3/VII)	角,輝,砂粒	横ハケ→粗いナデ	底面:ハケ→ナデ	砂粒多量
290	526	6. 121	▲10593 (F-4/VII)	黒,輝,砂粒	斜ハケ→ナデ	-	混和材:黒雲母 砂粒多量
291	527	6. 121	6981 (LV-19/VII) 6982 (LV-19/VII) 7103 (Ā-22/VIII) 7108 (Ā-22/VIII) 7148 (Ā-22/VIII) 7152 (Ā-22/VIII)	角,輝,細粒	指頭痕→ナデ	-	補修孔, 外径12,5mm, 内径7mm
291	528	6. 121	●2378(さ-31/VII)	砂粒,角,輝	ケズリ→丁寧なナデ	-	-
291	529	6. 121	●51000 (I†-27/VII) ●51002 (I†-27/VII)	黒,輝,砂粒	横ハケ→ナデ	-	混和材:黒雲母
291	530	6. 121	O57472 (D-25/VIIT) O57875 (C-25/VIIT) O68206 (E-25/VIIT) O68234 (E-24/VII) O68252 (E-24/VII)	砂粒,輝	ナデ	ナデ	_
291	531	6. 121		角,砂粒	指頭痕, 横ハケ →粗いナデ	-	外面スス付着
291	532	6. 121		輝,赤粒角	ナデ.横ケズリ →粗いナデ	-	-
292	533	6. 131	▲6108 (H-4/WII模転) ▲7896 (J-5/VIa 上) ▲8204 (J-3/VII) ▲8207 (J-3/VII) ▲9120 (J-4/VII) ▲9125 (J-4/VIII) ▲9125 (J-4/VIII) ▲9135 (J-4/VIII) ▲9136 (J-4/VIII) ▲9136 (J-4/VIII)	角, 輝, 雲, 細粒 , 赤粒	機ハケ→丁寧なナデ	-	-

第80表 縄文早期土器観察表(38)(6群土器-6)

挿図 No	図 No	分類 記号	取上No (グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
	533	6. 131	▲9154 (J-5/VII)	角, 輝, 雲, 細粒 , 赤粒	機ハケ→丁寧なナデ	_	_
292	534	6. 131	▲10475 (I-5/VII)	黒,輝,砂粒	丁寧なナデ	-	混和材:黒雲母, 細粒多量
292	535	6. 131	▲9130 (J-4/VIII) ▲9253 (J-3/VII) ▲12757 (J-3/VII)	角,輝,細粒	横ケズリ→丁寧なナデ	_	混和材:角閃石
293	536	6. 131	〇一括 (-/-) 〇一括 (-/-)	角,砂粒	ハケ→丁寧なナデ	-	-
293	537	6. 131	●50037(さ-31/Ⅷ) ●50040(さ-31/Ⅷ) ●50041(さ-31/Ⅷ) ●50043(さ-31/Ⅷ) ●50044(さ-31/Ⅷ)	角,輝,砂粒	粗いケズリ、縦→横へラ、 工具ケズリ	-	-
294	538	6. 122	▲10296 (J-4/VII)	角,輝,砂粒	丁寧なナデ	-	混和材:角閃石
294	539	6. 122	▲13827 (G-5/VII)	黒,砂粒,赤粒	ハケ→ユビナデ	-	-
294	540	6. 122	▲10288 (J-4/VII) ▲10331 (J-4/VII)	角,輝,砂粒, 赤粒	丁寧なナデ	-	混和材:角閃石
294	541	6. 122	▲9164 (J-5/VII) ▲10332 (J-4/VII)	角,輝,砂粒, 赤粒	丁寧なナデ	-	混和材:角閃 石,補修孔:A外 径8mm,内径 5mm,B外径 9mm,内径6mm
294	542	6. 122	▲17575 (J-6/VIII)	黒,輝,砂粒	縦ケズリ→丁寧なナデ	-	砂粒多量
294	543	6. 122	▲10149 (E-5/VII)	角,雲,砂粒	丁寧なナデ	-	細粒多量
294	544	6. 122	▲12614 (H-5/X II)	角,輝,砂粒, 赤粒	斜ハケ→ナデ	-	砂粒多量
294	545	6. 122	▲10334 (J-5/VII)	角,輝,砂粒	丁寧なナデ	-	混和材:角閃石
294	546	6. 122	▲9926 (F-4/VII)	角,輝,砂粒, 赤粒	丁寧なナデ	-	黒耀石
295	547	6. 122	●1751(さ-32/VII) ●2401(さ-30/VII) ●7181(う-21/VII)	黒,砂粒	横ハケ→ナデ	-	混和材:黒雲母, 砂粒多量
295	548	6. 122	●50027(さ-31/Ⅷ)	黒,砂粒	斜ハケ→ナデ	ナデ	混和材:黒雲母
296	549	6. 132	▲10395 (H-3/VII) ▲10680 (I-5/VII) ▲10692 (I-5/VII)	輝,角,細粒	ロ緑、胴部上半:丁寧なナデ、 胴部下半:横ケズリ →粗いナデ		-
296	550	6. 132	▲9465 (G-5/VII上)	輝,砂粒,赤粒	-	ロ唇部:ハケ →ナデ	-